

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
664	呼坂	よびさか	110	四万十町	ヨボ	昔は呼坂峠で集落の境界であり惜別の峠。長宗我部元親が窪川侵攻時、この坂で降伏勧告を大声で叫んだ	「土佐州郡志」 「窪川町史」新版	平成29年6月26日
591	神ノ西	こうのさい	201	四万十町		地検帳にはコウノサイ。高岡神社の先にある集落、神の先(崎)がコウノサイに転訛、神の西？	「長宗我部地検帳」 「仁井田之社鎮座伝記」 「史談くぼかわ」5号	平成27年11月2日
685	西原	さいばら	202	四万十町		南路志に「大永の頃西原氏居城ニ依て西原村と云」。仁井田五人衆の一人で紀伊日高庄出身。当時の氏は吉村	「南路志」 「高知県歴史事典」 「窪川町史蹟と文化財」	#####
244	片坂	かたさか	206	四万十町	カタ	つるべ下ろしの急坂と四国遍路日誌に記されている。佐賀側に下るだけのまさに片坂	澄禅「四国遍路日記」	平成20年3月11日
586	見付	みつけ	208	四万十町	見付	中世、窪川氏が茂串山城を築いたときの地名。見付は、城の出入り口に設けられた城門のこと	「長宗我部地検帳」 「四万十町通信」76号	平成27年9月14日
272	根元原	ごんげんばら	210	四万十町		集落には大元神社と神原神社の二つが氏神があり、神原神社を「権現さま」という。	「窪川町 史蹟と文化財」	#####
275	根々崎	ねねざき	211	四万十町	ネ	仁井田川が四万十川に合流する砂嘴の土地。五社の北(子)に位置する崎「子の崎」が転訛	「窪川町史」新版	#####
171	大井野	おおいの	216	四万十町	オイ	古名オイノ村。オホイノ村ニ非ズと仁井田郷談。弘法大師がこの地に笈神を祀ったに由来	甲把瑞益「仁井田郷談」 「南路志」	平成18年10月5日
340	口神ノ川	くちごうのかわ	217	四万十町		地検帳には口神之川。口、中、奥、寺野、大向、桧生原、大井野が神ノ川七カ村	「長宗我部地検帳」 「史談くぼかわ」5号	平成22年3月23日
190	天ノ川	そらのかわ	304	四万十町	スラ	山の木を滑り落とす装置がスラ=修羅。林業の盛んな地ゆえ、スラノカワが転じてソラノカワに	「土佐の地名」	平成19年2月22日
220	松葉川	まつばかわ	400	四万十町		土佐州郡志にも「松葉川山 松雑木多生皆禁伐」とある御留山。松葉は松場	「土佐州郡志」 「高知県市町村合併史」	平成19年9月18日
245	春分峠	しゅんぶんとうげ	412	四万十町		窪川と松原の国有林野地をつなぐ総延長15kmの林道。竣工が昭和43年の春分の日		平成20年3月18日
511	湯上り橋	ゆあがりばし	413	四万十町		松葉川温泉の近くを流れる日野地川に架かる橋。地元の人が命名。温泉の景色が映る名前	「明けゆく日野地」田井集 「高知新聞」1973年8月25日	平成26年1月27日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
9	壺斗俵	いっとひょう	415	四万十町		奥州南部の周防守高忠がこの地を開拓、粃米壺斗を時の国造に献上したことに由来。	「定本柳田国男集⑳」地名考説	平成15年5月29日
627	床鍋	とこなべ	501	四万十町	ナメ	川床の平坦で滑らかなことのナベ、ナベラ、ナメなどの転訛。弘法大師の「独鈷投げ」伝説の由来も	「おらんく話」 「四万十町通信」39号	平成28年8月22日
106	七子峠	ななことうげ	501	四万十町	ナナコ	本蚯蚓や添蚯蚓の坂、大阪谷から七子峠への名だたる難所。仁井田七郷へ通じる峠？七戸の茶店があった？	「窪川町史蹟と文化財」	平成17年6月16日
527	替坂本	かえざかもと	506	四万十町		旧仁井田村は久礼郷で上ノ加江へ通じる道があり、その坂の起点「加江への坂の本」	「史談くぼかわ」5号	平成26年5月26日
325	神有	かみあり	508	四万十町		地検帳にカミアリ村。五社が仁井田神社へ神幸する途中、ここで船出安全祈願。神在す意から	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「史談くぼかわ」5号	平成21年12月1日
572	仁井田	にいだ	508	四万十町		大平山の麓に鎮座する仁井田神社が由来か。高岡郡仁井田郷の高岡神社(五社)から勧請	「南路志」3巻・仁井田之社鎮座伝記	平成27年6月1日
688	仁井田	にいだ	508	四万十町	仁井田	古来、高岡神社(五社)とともに歴史を重ねてきた仁井田。新しい平坦な土地で新田に通じ新開拓地の意味も	甲把瑞益「仁井田之社鎮座伝記」	平成30年1月15日
576	平串	ひらぐし	510	四万十町		地検帳は川井、仁井田川と東又川が合流するところ川合。呼坂を越えると平坦な道、平越の転訛	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「史談くぼかわ」5号	平成27年6月29日
210	東又	ひがしまた	600	四万十町		新在家郷(東又)は「東番」と呼ばれる川又の地？本在家郷の東の川筋、東の川又？	「東又誌」 「高知縣市町村合併史」	平成19年7月10日
682	藤ノ川	ふじのかわ	606	四万十町	藤	山野に自生するフジは、蔓縄としてフゴやモッコウを編んだ。暮らしに利用された大事な植物、フジに由来する	東又村史 辻重憲「史談くぼかわ⑤」	#####
296	道德	どうとく	610	四万十町		戦国武将、辻進之丞が生国の地名をとってつけたと云う。どこで生まれ故郷かは不明	「史談くぼかわ」5号・辻重憲	平成21年4月28日
30	志和	しわ	618	四万十町	シ	大きな暗礁や礫を「し」と呼ぶ。亥の大変で沈む黒田郡の山のとっぺんが「し」。「わ」は浦曲(うらわ)の意	桂井和雄「おらんく話」 山中襄太「地名語源辞典」	平成15年11月6日
194	小室	おむろ	703	四万十町	フロ	京の法親王の寄港にちなみ、仁和寺の別称御室を。オムロ、フロは神の場所、八幡宮の聖林	「土佐州郡志」 「桂井和雄土佐民俗選集②」	平成19年3月22日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
191	大正	たいしょう	801	四万十町		東上山村当時、郡内に西上山村、東山村があり混同されることから村名を元号の大正に改称	「大正町史」 「中土佐町史」	平成19年3月1日
221	田野々	たのの	801	四万十町	タナノ	上山郷の中心、橋原川と四万十川によって形成された段丘のある開き地。棚野の転訛。	「大正町史 資料編」	平成19年9月25日
326	葛籠川	つづらがわ	801	四万十町	ツヅラ	葛籠は山あいでも暮らす人の大切な植物。多く自生する特徴が地名の由来。県内各地にある地名	「高知県内の河川関連地名」 「高知県の地名」平凡社	平成21年12月8日
614	希ノ川	きのかわ	803	四万十町		平成の合併で四手ノ川を改称。切実な願いを込めた希望の集落へ。シデはシデノキ、紙垂	「四万十町通信」67号 「高知県内の河川関連地名」	平成28年5月2日
292	打井川	うついがわ	806	四万十町	ウツ	「うつ」は、うと、うとうなど空洞状地形。険しい山々に挟まれた凹状地形を流れる川に由来	池田末則「地名の知識100」 多賀一造「大正のむかし話」	平成21年3月31日
298	茅吹手	かやぶくて	903	四万十町		カヤの自生する山腹をかやほて。田畑の肥料、牛馬の飼料、屋根の材料など暮らしの必需品	「土佐の地名」 東條操「全国方言辞典」 「十和村史」	平成21年5月19日
687	十川	と一かわ	912	四万十町		地検帳に「十川内」として大野村、今成村など7カ村を総称。明治に大野村が十川村に改称。10程の川にちなむ	広報誌「四万十町通信」25号	#####
28	生見	いくみ	#####	東洋町	イク	生き生きと躍動する「生海」、それが転じて生見に。「いく」は生命力の盛んなことをたたえる接頭語	「日本全河川ルーツ大辞典」 大野晋「日本語をさかのぼる」	#####
628	大斗	おおと	#####	東洋町	ト	野根川の中流域集落。大渡は対岸への渡し場があったことに由来。「大きな渡し場」も今は沈下橋	「長宗我部地検帳」 「高知県内の河川関連地名」 「芸東伝説散歩」市原麟一郎	平成28年8月29日
182	甲浦	かんのうら	#####	東洋町		桜津、甲ヶ浦、神浦。熊野神社の森が甲に似ている甲浦説、熊野から神が飛来した神浦説	寿美金三郎「甲浦物語」	#####
179	ゴロゴロ	ごろごろ	#####	東洋町	ゴロ	険しい断崖と荒海。ゴロゴロと音をたてる波打ち際は、薬王寺から最御崎寺は難所の遍路道	上野智子「地名語彙の開く世界」	平成18年12月7日
635	左手ヶ坂	さでがさか	#####	東洋町		野根山街道の四郎ヶ野峠へ向う難所。急登で駕籠を担ぐには左右の肩、特に左を鍛える必要がある	「東洋町資料集 野根山街道」原田英祐	#####
507	東洋町	とうようちょう	#####	東洋町		昭和34年、甲浦と野根の合併に14時間の論議で東洋町。役場の位置は26年間のジプシー生活	「昭和県行政体験誌」所収・小笠原豊暢	平成25年12月9日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
180	野根	のね	#####	東洋町	ネ	西鶴の「一代男」に『のね板の戸明るく』。野根山材による天井板。根は山の麓、裾の意	「土佐の地名」	#####
31	伏越	ふしごえ	#####	東洋町		伏して越えなければならない難所。万葉ゆかりの地ともいわれるが、海際の道をいう普通名詞説もある。	稿本「萬葉集古義」 岡林清水「土佐風土歷程」	#####
421	命谷橋	いのちだにばし	#####	室戸市		土佐州郡志では井之谷川で、家々や田畠に水を供給する水源で、大切な川「命の谷川」	「土佐州郡志」 「羽根村史」	平成23年12月5日
530	入木	いるぎ	#####	室戸市	ユルギ	風や波によって砂がゆり上げられるように堆積平地をユルギ。入木をイルキ、ユルギと読む	「長宗我部地検帳」 「おらんく話」	平成26年6月16日
74	行当	ぎょうど	#####	室戸市		古くは行道、行堂とも書いた。空海が土佐で最初に開いた金剛頂寺と修行の場(行場)を結ぶ「行道」の転訛	岡本健児「ものがたり考古学」 「七十一番職人歌合」	#####
537	黒耳	くろみ	#####	室戸市		海岸に黒松などを植えて日陰をつくり魚を集めるのが魚つき林。黒松の山の緑を「黒ミ」	「長宗我部地検帳」 「室戸史余話」 「土佐の史蹟名勝」	平成26年8月11日
643	四十寺山	しじゅうじさん	#####	室戸市		番外霊場の四十寺がある古くからの山名。かつて山頂に四十の寺があったという。	「土佐州郡志」 「広報むろと」2014年9月号・郷土を知ろう 第54話	#####
411	新村	しむら	#####	室戸市		土佐州郡志では新浦。阿波の遍路が移り住んだ新しい海辺の集落、新浦が転訛	「土佐州郡志」 「土佐と南海道」	平成23年9月12日
502	津呂	つろ	#####	室戸市	トロ	紀貫之が立ち寄った港ともいわれる。川の緩やかなところ、波の静かな入り江が「トロ」	「おらんく話」 「皆山集」9巻	#####
649	菜生	なばえ	#####	室戸市		室戸岬町の集落。津呂村は耕作地が少なく野菜類の栽培を菜生に頼っていた。年中温暖な土地柄は野菜類が育つ	「長宗我部地検帳」 「広報むろと」2011年1月号・郷土を知ろう 第10話	平成29年2月27日
186	奈良師	ならし	#####	室戸市		弘法伝説の地名。金剛頂寺建立に呼び寄せた奈良の工匠(師)に由来。田を均すエブリ説も	「土佐日記」 「土佐史談」200号 「ふたつの浮津から」	平成19年1月25日
607	櫛山	はぜやま	#####	室戸市		藩政期半ば、田野浦の商人蔦屋が開拓し櫛を植えて櫛山とした。蠟燭の材料「木蠟」を採取	「羽根村史」 「増補事物終始」岡本真古	平成28年3月7日
166	羽根	はね	#####	室戸市		古くは波禰、八禰。鳥の羽のような地形説、跳ね石由来説、根は山裾で、八つの集落説もある	「土佐日記」 「皆山集」 「羽根村史」	平成18年8月31日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
533	舟場	ふなば	#####	室戸市		海から離れた山あいの集落に舟場。加奈木の崩壊もないじぶん、船は奥深く入ったのだろう	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「佐喜浜郷土史」 松野仁	平成26年7月7日
143	加領郷	かりょうごう	#####	奈半利町		木材を伐り出す船曳場が漁業を営む地となり加漁郷となり、土地も開墾され加領郷と転訛	安岡大六「奈半利町史考」	平成18年3月16日
604	コゴロク	こごろく	#####	奈半利町		野根山街道そばにある奈良時代建立の安芸郡最古の寺院跡。地検帳に古五六村	「南路志」 「奈半利町史考」 「奈半利町史」	平成28年2月15日
623	須川	すがわ	#####	奈半利町		地検帳よりも古い時代には「菅生(スガフ)」と呼ばれ、カヤの一種である菅の自生地。須川に転訛	「長宗我部地検帳」 「南路志」 「奈半利町史考」	平成28年7月4日
163	奈半利	なはり	#####	奈半利町	ナハ	ナは魚、ハは庭、魚のいるところと桂井氏。田の物の生るところは安岡氏。なばるは徳弘氏	「奈半利町史考」 「土佐の地名」 「おらんく話」	平成18年8月10日
417	琵琶ヶ滝	びわがたき	#####	奈半利町		奈半利加領郷にある滝。鹿持雅澄も遊んだ古くからの名勝。滝壺が琵琶の形？滝音を琵琶音？	「滝をゆく」 宇野薫	平成23年11月7日
546	米ヶ丘	よねがおか	#####	奈半利町		御留山に火を放ち開拓した白石伝左衛門の死罪覚悟のドラマのような実話。生命の米が地名に	「土佐州郡志」 「奈半利町史」	#####
118	田野	たの	#####	田野町	タノ	配流人の高田と大野の合成地名？原意は”棚＝段丘”で開発途上のなかば原野をあらわす言葉が地名化	「田野町史」	平成17年9月8日
617	土生岡	はぶのおか	#####	田野町		地検帳には「ハフ谷」とある。土が削られ人家が生まれた説、歯が欠けハブだけ説の2説	「長宗我部地検帳」 「高知新聞」1980年8月5日	平成28年5月23日
141	久府付	くぶつけ	#####	北川村		玄蕃頭の首が空を飛んだ首着き、その首を漬けた説、クグ(ハマスゲ)の根付いた説など	安岡大六「北川風土記」 「北川村史」 「土佐の地名」	平成18年3月2日
375	木積	こつも	#####	北川村	コツミ	コツムは方言で集めて積むの意。もとは、川へ流した材木が集まる所、木材の集積地	「北川村史」 「高知県方言辞典」	平成22年12月6日
484	島	しま	#####	北川村		安芸郡成願寺村の小集落嶋。平家の落人で、地域の開拓者の島主殿守の名字に因む	「北川風土記」 安岡大六	平成25年5月20日
372	釈迦ヶ生	しゃかがうえ	#####	北川村		林鉄安田川線と奈半利川線の分岐点の賑わい。地検帳に釈迦ウ井ノ村。集落の釈迦堂に由来	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「北川村古道二百十軒」 樋口	#####

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
377	蛇谷	じゃだに	#####	北川村		蛇の母子伝説もある野根山街道の岩佐関所への登り口。文字どおりたくさん蛇がすむ谷	「野根山街道—東洋町資料集」	#####
492	四郎ヶ野峠	しろがねとうげ	#####	東洋町	シロガネ	野根山街道の峠。古文書には次郎ヶ野。銀鉱脈のシロガネ？街道筋の二郎野(広い野)？	「東洋町資料集 野根山街道」原田英祐	平成25年7月22日
419	羽毛	はげ	#####	北川村	ハケ	北川村の山深い集落。ハケルは洪水などで田畠等が流されること。谷は急流で一代三回も開墾	「北川風土記」安岡大六 「高知県方言辞典」 「奈半利川今昔」樋口中	#####
599	船九艘	ふなくそ	#####	北川村		船9艘運んできたと言う巨大津波の伝説が州郡志に。海拔60m奈半利から直線7kmの地	「土佐州郡志」 「奈半利川の今昔」樋口中	平成28年1月4日
373	相名	あいな	#####	馬路村	アイ	土佐州郡志には「相野村 日浦樋之尾ノ間ニ存 故名相野」。集落の間の野がアイナに転訛	「土佐州郡志」 「馬路村史」	#####
481	朝日出	あさひで	#####	馬路村		土佐州郡志に朝出。朝日の出が早い？馬路城主の家臣朝日掃部頭が農民となり開拓した地？	「土佐州郡志」 「馬路村史」 「馬路村の歴史と伝説」	平成25年4月15日
467	馬路	うまじ	#####	馬路村	ウマジ	保元の乱で逃れた平隆長の開拓地？。物資の運搬に馬を使用した山間の交通路で、県下各地に	「長宗我部地検帳」 「おらんく話」	#####
644	甚吉森	じんきちがもり	#####	馬路村		魚梁瀬の北方の山。落ち延びた平家が「あの森は甚だ吉である。」説。他方、須崎の山師・甚吉の恩が山名に	「馬路村史」 「須崎史談」51号	平成29年1月16日
650	千本山	せんぼんやま	#####	馬路村		土佐州郡志に出てくる御留山(標高1084m)。千は数量の多さを比喩。実際は約4万5千本とみて「万本山」か	「土佐州郡志」 「新日本山岳誌」 「高知新聞」1965年7月22日	平成29年3月6日
11	魚梁瀬	やなせ	#####	馬路村	ヤナセ	川に梁を仕掛けて魚を取る丁度いいところ「ヤナセ」。長い瀬「八咫瀬(やたせ)」の説も	「馬路村史」	平成15年6月12日
415	大木戸	おおきど	#####	安田町		木戸は城門の意味。安田城の大きな門があった場所が「大木戸」という地名に転じたか	「田野町史」	#####
709	瀬切	せぎり	#####	安田町	瀬切	地検帳に安田庄瀬切村。弘法大師が不動尊を彫り安田川に浮かべると川は瀬を切るように止まった伝説。	刊本「南路志」第8巻	平成30年7月30日
73	唐浜	とうのはま	#####	安田町		正月飾りの「ダイダイ」を家一軒に10本以上植え、その酢を年貢とした。橙の浜は貧苦象徴の地名	安岡大六ほか「新安田文化史」	平成16年10月7日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
487	船倉	ふなくら	#####	安田町		地検帳には安田庄船蔵村、州郡志には安芸郡中山村船蔵。安田川を往来する舟の小屋	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「新安田文化史」	平成25年6月10日
681	別所	べっしょ	#####	安田町	別所・別府	別所は本寺に対する末寺の意味。金剛頂寺の開創用材の一部で北寺を建立。また西寺・北寺の寺領地の別府の意	安岡大六、松本保「新安田文化史」	#####
139	安田	やすだ	#####	安田町		平安時代の和名抄に安芸郡安田郷と記録。良田のある土地は全国に。”瘦せ田”の逆の説も	「和名類聚抄」 「新安田文化史」	平成18年2月16日
87	与床	よどこ	#####	安田町		この地の四人の豪族がここを開拓。「四人所」が転訛して与床。貴人の人数を数えるに古くは「ところ」と言う	緒方宗哲「土佐州郡志」 「新安田文化史」	平成17年1月27日
256	赤野	あかの	#####	安芸市		赤色珪岩礫の鮮紅色の地質によって命名された地名。まさに赤く染まった原野「赤野」	「安芸の民話」第一集 「おらんく話」	平成20年6月17日
553	安芸	あき	#####	安芸市		続日本紀の767年のくだりに土佐国安芸郡。豊穰の意味説、安芸国渡来説、瀬戸内キ族説	「続日本紀」 「安芸市史 資料篇」 「日本古語大辞典」松尾静雄	平成27年1月5日
609	井ノ口	いのくち	#####	安芸市	イ	安芸川下流の田園地帯。弥生時代からの暮らしがある中世以前の地名。川の用水取り入れ口	「ふるさとのいとむかし」 千光士始	平成28年3月28日
639	大井	おおい	#####	安芸市		遠い昔、伊尾木川に大きな堰をつくり現在の流路となった。この「大井堰」に由来	「安芸市史 資料篇」	#####
164	黒鳥	くろどり	#####	安芸市		安芸郡の八つの郷のひとつ。水辺に営巣する黒い羽根の水鳥「クイナ」の里	「高知県方言辞典」 「土佐の地名」	平成18年8月17日
105	僧津	そうづ	#####	安芸市	ソウヅ	同様の地名が全国にある。原意は「しょうず＝生水」か。獣威しの仕掛け、水のわき出るところ、が由来	「高知県方言辞典」	平成17年6月9日
102	玉造	たまつくり	#####	安芸市		安芸郡八郷の一つ。玉造部は石玉製品をつくる職能集団。古代は安芸郡の中心集落とみられるが遺跡は未発	「安芸市史」	平成17年5月19日
408	奈比賀	なびか	#####	安芸市		伊尾木川、小川川、名村川が並んで流れていることから並川の地名が奈比賀に転訛	「安芸市史 資料篇」	平成23年8月22日
88	入河内	にゅうがうち	#####	安芸市	ニ	水銀は丹(に)、それを採掘精製する職能集団が丹生族。集落の氏神船岡神社の祭神は丹生姫でもとは丹岡	松田壽男「古代の朱」	平成17年2月3日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
233	畑山	はたやま	#####	安芸市		畑は火+田で焼畑の開墾地。焼畑を営む山間の地が「畑山」。地検帳に見る切畑の土地が多い	「土佐の地名」	#####
230	八流	やながれ	#####	安芸市		八流と矢流の地名由来。集落に八つの谷があった地形説、大雨で千束の矢を流した合戦説	「土佐州郡志」 「安芸の民話」第2集・和田鋭一	#####
20	瓜生谷	うりゅうだに	#####	芸西村	ウリウ	古くからの園芸の地の馬上は土佐で初めて真瓜(真桑瓜)が栽培された所。「瓜」地名は全国に点在する。	岡本真古「事物終始」 「芸西村史」	平成15年8月21日
71	琴ヶ浜	ことがはま	#####	芸西村		文献では「和食浜松」。松風を琴の音に擬して命名。藩は八流から手結まで三万本の松を留林として保護した	「芸西村史」 広谷喜十郎「芸西村琴ヶ浜考」	平成16年9月16日
451	道家	どうけ	#####	芸西村		芸西村の山深い集落。地検帳に道家之村。続日本記の756年のくだりにある土佐の道原寺が由来	「長宗我部地検帳」 「土佐国編年史料控①」 「土佐国編年紀事略」中山巖	平成24年7月30日
521	長谷寄	はせより	#####	芸西村		寺がチョウコク寺、土地がナガタニ、ここの寄り口をハセ寄。寺は飛ばされ今は羽尾に	「芸西村史」所収・芸西風俗譚	平成26年4月7日
75	和食	わじき	#####	芸西村		和名類聚抄にも和食とある古名。葦の茂った沼地「あしき」の転訛か、アシキ地名は全国に残る。キ族説も有	「芸西風俗譚」、「芸西村史」 木村紀子「古層日本語の融合構造」	#####
232	赤岡	あかおか	#####	香南市		赤土を盛り上げたような岡だったことに由来。古くは中岡(川と海の間)、赤岳、丹陵など	徳永千規「香美郡誌」 「赤岡町史」 「土佐州郡志」	#####
205	アゴデン	あごでん	#####	香南市	アゴ (あんご・あご)	安居(あんご・あご)は雨季を意味する梵語で転じて僧の修行。それをまかなう田(仏供田)	「佐古村史」	平成19年6月5日
338	出口	いでぐち	#####	香南市		地検帳には出口村。夜須の出口説?城山の出口説?井での口に開けた集落?大方にも「出口」	「長宗我部地検帳」 「土佐民俗」35号	平成22年3月9日
440	命山	いのちやま	#####	香南市		観音山に残る安政地震津波の碑が物語る、この山に駆け上がる数百人を救った命の山		平成24年5月7日
642	兎田	うさいだ	#####	香南市		鹿持雅澄は「古くは兎田(ウダ)。宇多の松原に通じる」という。広辞苑には「海浜の地名に残る」	「土佐日記地理弁」鹿持雅澄 「定本柳田国男集②」 「香我美町史 上巻」	#####
689	大忍	おーさと	#####	香南市		中世の大忍荘は土佐の代表的な荘園。太平洋岸から阿波国境までの大きな里。里の草書体を忍と誤読したか?	「皆山集」 「高知県史要」	平成30年1月22日



土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
25	烏川	からすがわ	#####	香南市	烏	捨て水の流れ故、ふだんは瀬川であった。そのために「カラス」。文字どおり烏が多くいた説もある。	「日本全河川ルーツ大辞典」河野通信「野中兼山と野市について」(野市町史所収)	平成15年10月2日
458	岸本	きしもと	#####	香南市		月見山の崖の下に鎮座する岸本神社。キシは切り立つ斜面や断崖を意味する。その地形に由来	「土佐の史蹟名勝」	平成24年9月24日
358	兄弟橋	きょうだいばし	#####	香南市		野中兼山が手がけた水利事業による東野溝と町溝、その二本の用水路に架かる橋が兄橋と弟橋		平成22年7月27日
497	香宗	こうそう	#####	香南市		平安期、香美郡に宗我郷、長岡郡に宗部郷。中世になり郡名の香で香宗我部「香宗」	「土佐物語」	平成25年8月26日
294	ごすいでん	ごすいでん	#####	香南市	ゴスイ	地検帳にはゴスイテン。沖縄では五水と書き、神酒のこととある。高知は一夜酒をゴスイ	「佐古村史」 「総合日本民俗語彙」	平成21年4月14日
686	新宮	しんぐー	#####	香南市	新宮	地検帳に新宮村。幕末の国学者、徳永千規は「近村ニ熊野新宮を祭れる所を新宮と号・・・」紀州から勧進に由来	徳永千規「香美郡誌」 「野市町史」下巻	#####
309	簾	すだれ	#####	香南市		荒地となりスタれた山畑をスタレと洒落て名付けたのが由来?	「長宗我部地検帳」 「土佐の地名」	平成21年8月4日
24	須留田	するだ	#####	香南市	スルド	「するど」尖っているさま・水はけのよい田地(駿田)に由来。静岡・駿河も早い流れに由来	「皆山集」 「赤岡町史」	平成15年9月25日
450	添地	そえじ	#####	香南市		夜須川沿いの集落にある宗円城跡。安芸国虎の家臣、宗円氏の支配した「宗円地」が転訛	「長宗我部地検帳」 「土佐国古城略史」	平成24年7月23日
693	武市橋	たけちばし	#####	香南市		野市百人衆郷士武市藤右衛門の居住地したことによる橋名。百人衆郷士は兼山の野市開発に登用された人々	「野市町史」上巻	平成30年3月5日
6	手結	てい	#####	香南市	デイ	結は海の人々の共同作業、手でする共同作業。一方、沖への出崎の「出居」の意味	徳弘勝「土佐の地名」 谷川健一「民俗・地名そして日本」	平成15年5月8日
307	徳王子	とくおうじ	#####	香南市		徳善村と王子村が明治の合併で徳王子村。徳善は有力者の名字、王子は池田王のゆかり?	「香我美町史」 「香美郡誌」	平成21年7月21日
703	中ノ村	なかのむら	#####	香南市		集落の中に平安前期にさかのぼる古社宗我神社がある。香美郡八郷の一つ「宗我郷の真中なる」村だから	「南路志」刊本第2巻	平成30年5月21日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
16	野市	のいち	#####	香南市	ノジ	野中兼山らの開発により”野原のなかに新しい市町ができた”。”土佐の三野地”の最初が野一、その転訛	徳永千規「香美郡誌」 吉田萬作「野市地名考」土佐史談189号所収	平成15年7月17日
561	羽尾	はお	#####	香南市		昔は安芸と香美を結ぶ要衝。ハは端、オは尾根。山並みの尾根が尽きるところに、小さな盆地	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「羽尾小史」	平成27年3月9日
362	備後	びんご	#####	香南市		地検帳には夜須庄にヒンコノ村とある。この地の武将吉田備後守重俊に由来？備後の商人説も	「長宗我部地検帳」 「高知新聞」昭和48年10月24日	平成22年8月23日
251	富家	ふけい	#####	香南市		「ふけ」は漢字渡来以前からの和語で「深田（低湿地帯の田んぼ）」同地名が全国に分布	「長宗我部地検帳」 谷川彰英「地名の魅力」 「土佐の地名」	平成20年5月13日
696	別所山	べっしょやま	#####	香南市		秀吉の中国攻めの際、落城した三木城主別所長治の遺児がこの地に逃れたという戦国秘話。香宗我部庇護下の地	赤岡町教委「赤岡の史跡」	平成30年3月26日
395	仏が崎	ほとけがさき	#####	香南市		手結の小高い岬。近くに長楽寺と薬師堂があることにちなんで仏が崎。中世夜須氏の菩提寺	「南路志」	平成23年5月16日
555	舞川	まいかわ	#####	香南市		南流する物部川に並行して山峡を北流する「逆さ川」は大栃で合流。くねくねと舞う様子を	「長宗我部地検帳」 「高知県香美郡町村誌 西川村」	平成27年1月26日
366	政処	まさどころ	#####	香南市	政所	香宗我部氏の役所跡。人々がマサドコロと呼び政処の字を当てた。地検帳に政所は59カ所ある	「吉川村史」 「土佐の政所」矢野城楼 「長宗我部地検帳」	平成22年9月27日
293	三又	みつまた	#####	香南市		野中兼山の遺構、用水路が三つに分かれることに由来。十善寺溝、町溝、東野溝に分流	松岡司「宰相野中兼山伝」	平成21年4月7日
97	吉原	よしはら	#####	香南市		葦原の低湿地。綱吉の吉を避け芳原に変更し明治になり復帰。イネ科の多年草、もとはアシだが悪しを嫌い善し	「吉川村史」 西郷信綱「日本の古代語を探る」	平成17年4月7日
279	明戸	あかりど	#####	香美市		葦生と山田を結ぶ往還道の峠を越えると山田の開けた視界が夜の明けた様となることから	「香北町史」	#####
207	油石	あぶらいし	#####	香美市		暗緑色の光沢をもった蛇紋岩。集落に露出し油のようにつるつる光っているのに由来	「土佐山田町地名解説」	平成19年6月19日
280	神母ノ木	いげのき	#####	香美市	イゲ	高知独特の言葉で、田の水をつかさどる神、稲の神。「おいげさん」の祠は県内に400余り	「土佐民俗」14.15合併号 桂井和雄「土佐のお神母考」 神尾健一「高知の田の神」	平成21年1月6日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
660	伊勢丸	いせまる	#####	香美市		仙頭の坂本治部丞が伊勢神宮から勧請、途中この地で病死し社殿を建て安置。この神社(神明宮)に由来	「長宗我部地検帳」 「広報香美」2012年3月号・香美史探訪記	平成29年5月22日
565	猪野々	いのの	#####	香美市	野々	州郡志に古へ伊野々常心ト云者ノ此村ニ居故ニ名。もと猪野氏は1202年葦生谷開拓の先人	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「香北町史」	平成27年4月6日
222	岩改	いわかい	#####	香美市	カイ	四方に岬々たる巖山をめぐらす「岩狭」説と「岩峡」説。峡は山と山に挟まれたところの意	「香北町史」	平成19年10月2日
312	岩村	いわむら	#####	香美市		物部川の下流域に広がる岩だらけ「岩群」が「岩村」に転訛。兼山の事業により穀倉地帯へ	「和名類聚抄」 「長宗我部地検帳」 「南国史談」30号	平成21年8月25日
661	馬袋	うまぶくろ	#####	香美市		カヤの生い茂る原野に馬が集まり水を飲んだ。腹いっぱい膨らんだ馬をなぞらえて命名。山田堰以前は荒れ野	「長宗我部地検帳」 「野市町史 上巻」 「支配中諸差出」	平成29年5月29日
431	大荒の滝	おおあれのたき	#####	香美市		香北町御在所山のふもとの秘境の滝。険しい岩場と樹木が生い茂る、暴れる二匹の竜伝説の滝	「こうち滝100選」武市伸幸	平成24年2月27日
253	大栃	おおどち	#####	香美市		大きな栃の木に由来する地名。トチは本来「椽」と書いたが「朽」から「栃」へ変化	岡内幸盛「被山風土記」	平成20年5月27日
318	押谷	おすだに	#####	香美市	オス	大きな石を落としてイノシシなどを獲る仕掛けのオスは、各地に残る方言。相手は、山姥退治	「高知県内の河川関連地名」	平成21年10月6日
630	飼古屋	かいごや	#####	香美市		カヒゴヤはカリゴヤ(仮小屋)の転訛。合戦で建てた仮の小屋。小屋は物見か警固か	「長宗我部地検帳」 「天坪村誌 上巻」	平成28年9月12日
534	鏡野	かがみの	#####	香美市		治政の功があった郡次官・物部鏡連家主の姓にちなみ?道ゆく人を写す鏡岩?二つの伝承	「土佐国群書類従」8巻・土佐幽考	平成26年7月14日
647	檜谷	かしたに	#####	香美市		穴内川の中世以前からの地名。集落の氏神・仁井田神社に檜が多かった、他方長宗我部の命で檜谷説も	「長宗我部地検帳」 「天坪村誌 上巻」	平成29年2月6日
550	片地	かたじ	#####	香美市	片	工科大辺り、13集落を合わせて片地郷。物部川左岸に流れ沿い一方が山で片方が川	「土佐州郡志」 「香美郡町村名鑑」岡林壽男	平成26年12月8日
632	暁霞	ぎょうか・あかつか	#####	香美市		明治22年の合併で八つの村が暁霞村になった。村の中央にまたがる「赤塚山」に暁霞を充てた	「暁霞村史」 「土佐山田郷土史」山崎徳治	平成28年10月3日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
130	京田	きょうでん	#####	香美市	経田	経田とは寺の諸事をまかなうための寄進田。地検帳にも経田村とある。	岡本真古「事物終始」	平成17年12月8日
569	楠目	くずめ	#####	香美市		楠木正成一族の楠氏は因幡国から土佐に落ち延び山田氏の家臣に。葛目村に居住から楠目	「楠目氏略史と系譜」楠目豊 「土佐国群書類従」3巻	平成27年5月11日
658	国見山	くにみやま	#####	香美市△本 山町	国見	中世以前の山名。眺望が得られる山で、藩政期には土佐街道・参勤交代の道でもある。殿は「これが我が国」	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」	平成29年5月8日
390	倉入橋	くらいればし	#####	香美市		兼山は新田とともに上井川、中井川、舟入川の用水路を整備。倉入は藩米を倉に納めること	「ふるさと」鍵山正男	平成23年4月11日
320	計多	けた	#####	香美市	ケタ	「ケタ」は山の高い所、峰を言う土佐の方言。山あい独自の地名	「寺川郷談」 「高知県方言辞典」	#####
436	御在所山	ございしょや ま	#####	香美市		五つの在所(村落)がある五在所山説と平教盛卿がこの地で没し宰相の墓として御宰相山説	「高知県管内 土佐国地誌 略」高知師範学校 「在所村史」	平成24年4月2日
214	佐岡	さおか	#####	香美市		土佐山田の旧佐岡村。右手に物部川が、左手に岡が広がるたたずまいが「左の岡」の由来	「土佐山田町地名解説」 「土佐州郡志」	平成19年8月7日
671	逆川	さかかわ	#####	香美市		土佐の川は総じて北から太平洋へ。物部川の東側、片地川は集落を珍しく北流する。地検帳にも逆川ノ村とある	「高知県香美郡町村誌 佐古村」	平成29年8月21日
196	塩	しお	#####	香美市	塩	担がれた御神体と塩が落下。御神体は塩峰公土方神社、塩は下の集落名に。製塩窯の薪が塩木	「土佐の地名」	平成19年4月3日
34	繁藤	しげとう	#####	香美市		地検帳には肆手任・四手任・仕出峠・四手藤とある。昔は「しでとう」。死出の塔に通じ嫌われ「繁藤」に改名	多田政治「甫喜峯疎水誌」	平成15年12月4日
151	庄谷相	しょうだにあ い	#####	香美市	谷合	中世のころは谷相(谷合)。物部川の対岸葦生郷の谷相村と区別するため大忍庄の庄を加えた	吉村淑甫「岸豆」 「物部村史」	平成18年5月18日
494	新改	しんがい	#####	香美市	新改	中世以前には蚊居田村、蚊居田から分離した新しい村が新蚊居(新改)。蚊居田も開田が由来	「長宗我部地検帳」 「新蚊居筆記」田村重則	平成25年8月5日
170	秦山町	じんざんち ょう	#####	香美市		この地に移り住んだ藩政の儒学者谷秦山にまつわる名。昭和41年の町名変更による人物地名		平成18年9月28日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
40	須江	すえ	#####	香美市		古代、焼き物や陶器のことを陶(すえ)といった。かつて須江村あるいは陶之村は「須恵器の里」。全国に分布	香長小学校創立百周年記念誌「陶の里」	平成16年1月22日
204	清爪	せいづめ	#####	香美市		古くはセツメとも呼ばれ「清詰」とも書かれた。「井詰」は谷川から引かれた用水路の末端を意味する	平凡社「高知県の地名」「香北町史」	平成19年5月29日
224	仙頭	せんどう	#####	香美市	専当	荘園の実務に携わる荘官名のひとつ。専当職は土地の豪族が任じられ、それが地名に転訛した	「南路志」	#####
398	高柳	たかやなぎ	#####	香美市		柳は池や水辺でよく見かける樹木。物部川の河畔にも高木の柳が集落を印象付けた	「ふるさと」鍵山正男「山田、南国伝説散歩」	平成23年6月6日
708	谷相	たにあい	#####	香美市		「古へ谷相勘解由兵衛ト云者居所故二村二名云」と土佐州郡志に。一方「香北町史」には村名から谷相氏と。	「香北町史」	平成30年7月23日
135	太郎丸	たろまる	#####	香美市		”丸”は領地の意。永徳の大洪水で崩壊した集落を復興した武内太郎にちなんだ地名	「香北町史」竹内重意「太郎丸物語」	平成18年1月19日
142	談議所	だんぎしょ	#####	香美市		談議とは仏典の意義を説くこと。中世末期、全国各地に談議所を設けた。吉祥寺の談議所	「土佐史談」15号・郷土史断片 「岩波仏教事典」	平成18年3月9日
148	拓	つぶせ	#####	香美市		つぶせと読む。”つぶての名人喜平次”に由来。桑(古くはつみ)の自生する集落?	「土佐の地名」	平成18年4月20日
218	戸板島	といたじま	#####	香美市		沖ノ島が戸板島に変わったのは天正年間。物部川の中州の開拓田「飛び田」の転訛?	「佐古村史」 「土佐史談」61号 「土佐の地名」	平成19年9月4日
132	南松	なんまつ	#####	香美市		白鳳津波がこの松の根元まで来た(波松説)と阿弥陀寺境内にある松の老樹並木(並松説)	「山田文化小史」	#####
324	蕪生野	にろうの	#####	香美市		物部川の中上流域の一角が蕪生郷。美良布が訛りニロウ?蕪は古名ミラ(フ)→ピラフ説	「南路志」	#####
360	根須	ねず	#####	香美市		常緑針葉樹で、尖った硬い葉がネズミ避けとなることからネズミサシ(鼠刺し)、略称でネズ	「土佐の伝説 2巻」	平成22年8月9日
392	萩野	はぎの	#####	香美市		古くは蕪生郷の一集落で、萩の、村。元暦文治の頃萩野勘解由太夫が居住地地名となる	「美良布文化史」所収・蕪生郷口碑筆記	平成23年4月25日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
621	橋川野	はしかわの	#####	香美市		地検帳にも「橋川野」。信玄公の家臣説もあるが実際は、葦生野の端にある川沿いの集落「端川野」	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「土佐史談」62号	平成28年6月20日
137	日ノ御子	ひのみこ	#####	香美市		安徳天皇の皇子を「日ノ御子」と呼んだ皇子説や日のよく当たる「日ノ向キ」の転訛説など。	「香北町史」 「おらんく話」	平成18年2月2日
184	百石	ひゃっこく	#####	香美市		土佐最初の禅寺・予岳寺の寺領百石に由来。楠目城主、山田元道の菩提寺	「土佐山田町史」	平成19年1月11日
252	府内	ふない	#####	香美市		地検帳には舟井ノ村。水を貯めておく木桶を水舟(舟井)といい暮らしの水に利用した集落	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」	平成20年5月20日
691	別役	べっちゃく	#####	香美市	別役	大槇山郷に属す村。荘園領主から任命された経営実務に携わる専当8仙頭)。その下働きが別役・雑用(蔵用)	「土佐国地方史料」1956年 松本実「村のあれこれ」1971年	平成30年2月5日
346	甫喜ヶ峰	ほきがみね	#####	香美市		土佐州郡志には穂岐之峰。本山方面への山越え往還道。山合いの切り立った崖「ホキ」	「土佐州郡志」 「桂井和雄土佐民俗選集②」	平成22年5月4日
615	槇山	まきやま	#####	香美市		古くは大忍庄の槇山。物部川の大栃から源流域までを言う別称。槇の大木の自生に由来	「被山風土記」岡内幸盛	平成28年5月9日
437	安丸	やすまる	#####	香美市		「此処安丸弥太郎ト云者ノ住居ス故ニ村ノ名」。梶原氏に代わる新領主山内弥太郎が改姓	「土佐州郡志」 「黒代・安丸風土記」岡村啓一郎	平成24年4月9日
619	柳瀬	やないせ	#####	香美市		地検帳には柳瀬之村」、藩政期には「柳イ瀬」とも。上葦生川の両岸に茂るヤナギが自生。	「長宗我部地検帳」 「南路志」2巻所収・柳瀬貞重筆記	平成28年6月6日
636	夢野	ゆめの	#####	香美市		獲物を狙って射手が身を隠すための設えが「射目(いめ)」。射目野の転訛。土佐物語にも夢野あり	「長宗我部地検帳」 「谷川健一全集」16巻 「土佐物語」	平成28年11月7日
199	四ツ足峠	よつあしとうげ	#####	香美市		土阿国境に祭られた四本の柱に支えられたお堂「四ツ足堂」に由来。傍爾山は土地の境の意	「物部村史」 山崎清憲「土佐の峠風土記」	平成19年4月24日
59	龍河洞	りゅうがどう	#####	香美市		古文書には大穴・龍窟・水窟・龍河とある。土御門上皇が「龍駕(天子の乗り物)」で来洞。龍の棲む洞穴の意	山内浩「地底の神秘を探る」 黒田日出男「龍の棲む日本」	平成16年6月10日
198	阿戸	あど	#####	南国市		土佐日記の「大湊」十市説?オド(大門=門は水の出入り口)が転じてアド。	「土佐国群書類従⑧」所収・吉村春峰「大港考証」	平成19年4月17日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
255	石土池	いしづちいけ	#####	南国市		石土神社は「イワツチ」で池は「イシヅチ」。式内社の神社は海上鎮護の神、後の岩山に由来	「十市村の地名の研究」	平成20年6月10日
46	伊達野	いたちの	#####	南国市		かつては低湿な土地柄でイタチ生息の地。地元でネズミ退治の感謝もこめて「いたちの」と呼ぶ。	徳弘勝「土佐珍問考」	平成16年3月4日
528	稲生	いなぶ	#####	南国市		衣笠村、下田村を合併する際、稲の豊穰なる生育を願って「稲生」と命名。二期作発祥地	「稲生村史」	平成26年6月2日
499	稲吉	いなよし	#####	南国市		後免や大桶の辺りで、稲吉神社、稲吉公民館がある。足利尊氏の時代の文書に稲吉村と	「長宗我部地検帳」 「皆山集」9巻・手結浦日抄	平成25年9月30日
367	岩瀬川	いわせがわ	#####	南国市		地検帳にはイワシ川ノ村(岩清川)。国分川はかつて岩清水のわく川、別宮八幡宮にまつわる川	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「角川日本地名大辞典 高知」	平成22年10月4日
63	大桶	おおそね	#####	南国市	こは (確・ 塙・曾 垣、に	石交じりのやせ地(大言海)。「そね」には”荒地”のほかに”低く長く続いた嶺”の意もある	山本笹樹「十市村古事考」	平成16年7月8日
463	大湊	おおみなと	#####	南国市		浦戸より漕ぎ出でて、大湊を・・・は土佐日記。前浜、十市、池等の諸説?前浜に大湊泊地跡碑	「土佐日記」 「高知県歴史事典」 「土佐の史蹟名勝」	#####
58	岡豊	おこう	#####	南国市		学者の「往古より豊岡上天神社の地で正しくは豊岡」に元親が激怒。長岡郡の土佐国府が岡府、豊岡に結び岡豊	植木拳因「土陽淵岳誌」 「岡豊村史」	平成16年6月3日
4	蚊居田	かいだ	#####	南国市	カイダ	腰までの湿田や群舞する蚊、農民の苦労をしのぶ。カイダは開田で新田を拓いた村の意味	宇賀和彦「蚊居田村風土記」	平成15年4月24日
453	金地	かなじ	#####	南国市		集落の近くに鎮座する神奈地祇神社の祭神賀奈知姫命(かなぢひめのみこと)にちなんでカナジ	「土佐の史蹟名勝」 武市佐市郎	平成24年8月13日
482	亀岩	かめいわ	#####	南国市	亀岩	地検帳は亀岩、州郡志は瓶岩。瓶に似た白い岩は飲み水をためるハンド岩(酒の神の酒甕)	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「南国市史 下巻」	平成25年4月22日
195	錦城	きんじょう	#####	南国市		戦時中の集落整理で誕生。「お互いいい”近所”づきあいを」から錦城と。ダジャレ地名	山本笹樹「十市村の地名の研究」	平成19年3月29日
575	楠木橋	くすきばし	#####	南国市		参勤交代の北山越えの道筋の頃、東岸の宍崎と西岸の亀岩を結ぶ渡瀬。川辺の大楠が由来	「土佐州郡志」 「南国市史資料 旧村誌」	平成27年6月22日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
39	国分川	こくぶがわ	#####	南国市		眠川(ねむりがわ)・岩清川(いわしがわ)の異名も。八幡山の別宮八幡宮が京都の石清水八幡宮を勧請した	「土佐州郡志」 「国府村誌」	平成16年1月15日
348	小蓮	こはす	#####	南国市		小野村、蓮如寺村の合併地名。古くから村の境界紛争が度重なり、知事の仲裁で「小蓮」	「岡豊村史」	平成22年5月18日
68	後免	ごめん	#####	南国市		兼山開拓の地。舟入川の水運の便で物産の集積地に。承認に諸税・諸役免除の地「御免」。後面、後免に転訛	山口博「後免町創立記念碑」 丹羽基二「地名でわかるおも」	平成16年8月12日
405	後免	ごめん	#####	南国市		全国に知れわたる珍地名。野中兼山の開拓地、入植者の年貢などが免除されたことに由来	「室戸市史」上巻	平成23年8月1日
509	権若峠	こんにやくとうげ	#####	南国市		蒟蒻坂とも。南国市亀岩の北山越えの峠道。コンニャクに類した食物の自生する峠	「南国市史資料 旧村誌編①」 「南国史談」5号	平成26年1月6日
329	才谷	さいたに	#####	南国市		古くは佐比谷、佐井谷。この地の大刹「佐比谷寺」にちなんだ地名。読みはサイダニ	「南国市史資料」所収・瓶岩村誌 「定本 坂本龍馬伝」松岡司	平成22年1月5日
539	坂折山	さかおりやま	#####	南国市		別名を年越山。麓の祈年神社の年乞いの祭りに由来。神職が「榊を折り取った山」	「土佐州郡志」 「長岡村史」	平成26年8月25日
394	錆野	さびの	#####	南国市		長岡と香美の郡界となる里改田の小集落。終戦頃には人家もなく寂しい野から「寂野」と呼称	「ふるさと 前ノ浜のかたち」浜田善三郎	平成23年5月9日
517	宍崎	ししざき	#####	南国市		猪狩りが盛んに行われた戸山郷の入り口の集落。また獵犬のことをシンザキと言う	「瓶岩村発達史 郷土編」岡林清信	平成26年3月10日
542	地蔵渡し	じぞうわたし	#####	南国市		国分川の北岸と南岸を行き交う渡瀬。渡渉の安全祈願の渡し場の目印となる文化七年の地蔵	「高知県長岡郡国府村誌」	平成26年9月22日
216	城陸	じゅうろく	#####	南国市		古代条里制の町、条、里、坪の区画。十六番目の坪？それとも十六が城陸に転訛？	「長宗我部地検帳」 「南国市史」	平成19年8月21日
116	白木谷	しらきだに	#####	南国市	シレ	「泉谷＝白水の谷」が誤って「白木谷」に転じた？枯れた木が白骨林となったため？石灰石の産地でシラメイシ	石井一郎「郷土史・榎の本」	平成17年8月25日
704	新秋田川	しんあきたがわ	#####	南国市		戦時中、高知海軍航空隊の飛行場建設で村も川も消えた。秋田川は新秋田川として空港の下を流れる。	「高知空港史」	平成30年5月28日



土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
14	陣山	じんやま	#####	南国市	ジン	戦国時代、山田氏が長宗我部氏に敗れ、滅亡した合戦の地。「陣」地名は全国にある	吉田孝世「土佐物語」	平成15年7月3日
523	末松	すえまつ	#####	南国市		野中兼山の新田開発によって生まれた地名。2代藩主から西野地の地を任せ末松が地名に	「長岡村史」	平成26年4月21日
468	蛸の森	たこのもり	#####	南国市		稲生と十市の境にある山。こんもり丸い頂と斜めにのびた稜線がタコのように見えたことから	「十市村古事考」	#####
103	立田	たてだ	#####	南国市		物部川下流の西岸。中世の頃から香美郡立田村で甲浦への大路が走る。古代条里制の縦に並んだ田の形状の名残	「南国市史資料(二)」	平成17年5月26日
344	田村	たむら	#####	南国市		物部川下流の右岸、香美郡八郷の一つ田村庄。田村遺跡群もある土佐稲作の発祥地	「高知県香美郡田村誌」宮地美彦	平成22年4月20日
633	十市	とおち	#####	南国市		海辺に延びた砂洲。遠く突き出ている「遠洲」、門戸のような「戸洲」がとおつ、とおちに転訛	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「十市村古事考」山本笹樹	#####
84	年越山	としごえやま	#####	南国市		朝廷の祈年祭(としごいのまつり)にちなんだ山名。年越山ももとはトシゴイで神社の祝詞にも祈年トシゴイ	「皆山集」	平成17年1月6日
26	鳶ヶ池	とびがいけ	#####	南国市		肉食をきらった当時死んだ牛や猫の類までその池に投げ込み鳶がそれを狙った説。男女が自害に「飛び込む」説	「長岡村史」	平成15年10月9日
612	外山	とやま	#####	南国市	外山	人里に近い端山や外山、離れた遠山、奥山、深山。北山越えの官道がパッと開けた眺望となる	「南国市史資料 旧村誌編①」	平成28年4月18日
359	長岡	ながおか	#####	南国市		延喜式にさかのぼる歴史地名。由来は長く連なった岡で、南国市などを含む広い地域	「延喜式」 「長岡村史」平尾道雄	平成22年8月2日
317	梨浦	なしうら	#####	南国市		文字どおり海辺の梨の木が地名に由来。地検帳にもナシウラとある。石土池に面する月の名所	「長宗我部地検帳」 「十市村古事考」 川村与惣太「土佐一覽記」	平成21年9月29日
479	成合	なれあい	#####	南国市		長岡郡甫喜山村の一村、成合村。阿弥陀堂の大祭8月14日は天下公認の男女の馴れ合う日	「なんと」41号 「南国市史資料 旧村誌編①」	平成25年4月1日
491	西山	にしやま	#####	南国市		野中兼山の開削地の一画。山内家家臣西山茂兵衛の知行地で西山丸と呼ばれた	「長岡町史」	平成25年7月8日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
100	日章	にっしょう	#####	南国市		高知空港のある辺りを今も「日章」とよぶ昭和17年の合併地名。漢学者北村沢吉が興した日章園に由来	「南国史談」17号・北村澤吉博士と日章園	平成17年4月28日
305	人形谷	にんぎょうだに	#####	南国市		藩政中期から明治中期まで「土人形」が作られた人形の里。でこ谷の別称も。	春峰会「とおち」	平成21年7月7日
94	廿枝	はたえだ	#####	南国市	ハタ	古代の長岡郡宗部郷(そがべのごう)。「秦氏の土地の枝郷」が「はたえだ」に。秦氏(長宗我部)ゆかりの地	吉田東吾「大日本地名辞書」「高知県歴史事典」	平成17年3月17日
448	八丁	はっちょう	#####	南国市		禅師峰寺への道のりが行きが四丁、戻りが四丁。これにちなんでふもとの集落を「八丁」	「十市村の地名の研究」山本笹樹	平成24年7月2日
469	比江	ひえ	#####	南国市		国司が都を懐かしんで後山を比叡山に見立て比江山と名付。山裾に日吉神社(ひえじんじゃ)	「南路志」「南国市史」	平成25年1月7日
257	福船	ふくぶね	#####	南国市		明治17年香美郡福田村と船渡村の合併によりできた合成地名。七福神の宝船を想起する福船	「日本地名辞書の解き事典」「南国市史資料 旧村誌編	平成20年6月24日
475	舟入川	ふないれがわ	#####	南国市		野中兼山の手で開削された三河川のひとつ。城下への物資輸送の水路ともなり「舟の入る川」	「南路志」	平成25年3月4日
548	前浜	まえはま	#####	南国市		土佐日記の停泊地、大湊の推定地。物部川河口の田村から対岸の砂浜を見て「前の浜」	「土佐州郡志」「前浜村誌」	#####
109	明見	みょうけん	#####	南国市		明見川の山手に明見彦山古墳。大津城主が祭る武将の守護神「妙見菩薩」から。北極星＝妙見菩薩＝星神社	「大篠」	平成17年7月7日
21	八京	やきょう	#####	南国市		「八幡社有、祭日飯ヲ器ノ八ニ盛り、以神ニ供ス、故ニ之ヲ名」と土佐州郡志に記録。今は八膳飯の習わしは無	「土佐州郡志」	平成15年9月4日
590	八幡	やはた	#####	南国市		岡豊山の北東、男山に別宮八幡宮に鎮座。京の石清水八幡宮に由来する八幡宮が「やわた」	「土佐物語」「土佐幽考」安養寺禾麿	#####
701	井川	ゆーこー	#####	南国市	ユ	入交氏の発祥の地。摂津の渡辺氏から起こり紀州熊野の先達、出雲を経て土佐に来歴。入交の音読が「井河」	寺石正路「土佐名家系譜」	平成30年5月7日
444	吉田	よしだ	#####	南国市		集落の丘に吉田備後守邸跡の碑。名字と同じ吉田の地にゆかりを感じ定住した相模国の重臣	「土佐物語」吉田考世	平成24年6月4日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
446	領石	りょうせき	#####	南国市		根曳峠への登り口の集落。地検帳には龍石。竜に似た奇岩？竜石寺という寺名に由来？	「長宗我部地検帳」 「なんと」41号・南国史談会 「高知県の地名」平凡社	平成24年6月18日
167	穴内	あなない	#####	大豊町	アナナイ	”助ける”を意味する古語あななう。この地を助けて開拓した歴史に由来。アイヌ語アネナイ(細い川)？	大友幸男「日本の地名散歩」 「土佐の地名」	平成18年9月7日
543	尾生	おお	#####	大豊町	オ	植物のオ(カラムシ。苧・麻)に因んだ名。皮を剥いだ幹は焚きつけ薪、実は食べ物のオノミ	「大豊史談」31号	平成26年9月29日
313	大砂子	おおすなご	#####	大豊町	スナゴ	砂子は「すな・まさご」のこと。大量の砂礫のあるところは山崩れ等の崩積土による災害地名	「どんぐり」県中央土木事務所・本山事務所ネット情報誌 「大豊町史」	平成21年9月1日
259	大田口	おおたぐち	#####	大豊町		行基開創の古寺、国宝薬師堂のある宝楽寺の山号「大田山」にちなみ、登山口であることから		平成20年7月8日
108	角茂谷	かくもだに	#####	大豊町		山並にかくまわれているような隠れ里のたたずまい景観。囲むの古形「かくむ」から転じた	「ふたつの浮津から」	平成17年6月30日
168	梶ヶ森	かじがもり	#####	大豊町	カジ	古くは加持ヶ森、加持ヶ峰、鍛冶ヶ仁保。”にほ＝にお”は山の奥の意。空海の祈りの森説？		平成18年9月14日
702	刈屋	かりや	#####	大豊町		地検帳に借屋。都から「王朝ノ公卿五人」が流され、その慰めに仮屋を建て市を開いたことに由来	「土佐州郡志」 「南路志」	平成30年5月14日
608	黒石	くろいし	#####	大豊町		中世以前にさかのぼり、古くは長岡郡黒石村。「黒石様」とよばれる大蛇伝説の岩が由来	「大豊町史」	平成28年3月14日
710	三傍示山	さんぼうじやま	#####	大豊町	傍示	土佐州郡志に「三傍爾 美津保宇志 北予州東阿洲」三国境に位置する山。ぼうじは石などで領地境界を標示	山と野原の会「山と野原を歩く」	平成30年8月6日
474	千本	せんぼん	#####	大豊町		北山越えの官道が通る傾斜のきつい山地。崩壊を恐れ千本の杭を打ち込んだ苦労を刻んだ地名	「立川遺聞録」長岡京馬	平成25年2月25日
156	立川	たじかわ	#####	大豊町	タジ	参勤交代北山越えの道。イタドリの古名「タジヒ」に通じる名。延喜式には丹治川とある	「土佐の地名」 「本川の民話」	平成18年6月22日
624	杖立山	つえたてやま	#####	大豊町	ツエ	元親が四国制覇を目指し阿波へ侵攻していった峠。頂上に来て一息説、杖は潰の崩壊地名説も	「土佐州郡志」 「谷川健一全集」14巻	平成28年7月11日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
712	津家	つげ	#####	大豊町		「本山郷ノ内津家村あり黄楊木多し」と土佐州郡志。ツゲ(黄楊)は土佐の産物で延喜式にも献上品とある。	刊本「皆山集」第9巻「延喜式」	平成30年8月20日
32	連火	つれび	#####	大豊町		「つれ」は”つらなり”の連で「び」は”ほとり”を表す廻・傍。尾根の連なりに立地する集落の意味	朝倉慶景「大豊史談」第15号所収	#####
343	豊永	とよなが	#####	大豊町		藩政期には地域を総称して豊永郷。領主小笠原氏の出身地熊本豊永庄の地名に因む	「大豊町史」 「角川日本地名大辞典熊本県」	平成22年4月13日
311	長瀬橋	ながとろばし	#####	大豊町	トコ	地元の人が川面静かな吉野川を「長瀬」と呼んだことによる。トコは止まるに由来	「高知県内の河川関連地名」	平成21年8月18日
594	西峰	にしみね	#####	大豊町		嶺北には阿波側から名付けられた地名が多い。土阿境の一つ京柱峠から土佐の山々を見て西峰	「長宗我部地検帳」 「大豊町史」 「西峰の流れ」山本駿次朗	#####
602	怒田	ぬた	#####	大豊町	ヌタ	古くは布田。山村に多いヌタ地名。雑草の繁茂する湿地、湿田、猪の臥床。現地には合わない	「桂井和雄土佐民俗選集②」	平成28年2月1日
513	日浦	ひうら	#####	大豊町	日浦	南向きの斜面で日当たりの良いところ。ウラは大平のヒラと同じく側・方向の意味	「桂井和雄土佐民俗選集②」 「高知県方言辞典」 「気候地名集成」吉野正敏	平成26年2月10日
133	平和橋	へいわばし	#####	大豊町		日露戦争の翌年、不戦を願って命名。佐藤の寄附など100年の歴史を刻む高知最初の鉄線吊橋	「大豊町史」	平成18年1月5日
480	目付	めつき	#####	大豊町		地検帳にはメツキ村。本山郷和田名と殖田郷寺内名の境にあり、戦略上の要地、目付だった	「長宗我部地検帳」 「大豊史談」9号	平成25年4月8日
316	桃原	ももはら	#####	大豊町	ママ	桃の木とは無関係。ママは急傾斜地・崖の意の地形語。近くに大カケ、大ツエなどの災害地名	池田末則「地名風土記」	平成21年9月22日
262	吉野川	よしのがわ	#####	大豊町		四国三郎、古くは阿土川。川岸がヨシに覆われることに由来?奈良の吉野にみたて?	「大豊町史」 「四国のいのち 吉野川事典」	平成20年7月29日
226	汗見川	あせみがわ	#####	本山町		万葉植物と云われるアセビを由来とする地名。馬が葉を食べると苦しむことから馬酔木という	「土佐州郡志」 「土佐の地名」	#####
596	瓜生野	うりうの	#####	本山町	瓜生野	落ち延びた安徳帝を迎えた里人が野生のウリを差し上げた。この言い伝えから「瓜生野」	「長宗我部地検帳」 「新本山の歴史」2分冊	#####

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
423	大石	おおいし	#####	本山町		藩政期には長岡郡大石村。集落全体に土地が岩盤質で、大きな石が見えている。そんな地形	「ふるさと大石」山中利亀「土佐史壇」2号	#####
217	木能津	きのうづ	#####	本山町		筏の組み立て地に由来(坂本正夫)。「木の津(港)」。木材水運の拠点	「高知県内の河川関連地名」高木啓夫「土佐のかたち・尾根の人々」高知新聞連載	平成19年8月28日
215	寺家	じけ	#####	本山町		公家が朝廷に仕える家人、「寺家」は寺院や僧を意味した。土佐州郡志に長徳寺のある集落	「土佐州郡志」	平成19年8月14日
159	白髪山	しらがやま	#####	本山町		白い石が覆う峻しい山「白蛾」の字が、後に猿田彦(白髪の老翁)を祭るにちなんで「白髪」	「本山町史」	平成18年7月13日
122	助藤	すけとう	#####	本山町		「介当」「介藤」「助任」などとも書いた。戦国時代、阿波国助任村から来た開拓者の集落。「菅の峠」説も	高木孫四郎「本山城懐古史」岡林裕彦「本山風土記」	平成17年10月6日
107	田高須	たこうす	#####	本山町	タカス	「元鷹巣村とて大鷹の巣を構へりしより地名」と郷土史。「たかす」は川の蛇行地に土砂堆積の「高い砂州」	「桂井和雄土佐民俗選集②」高木孫四郎「本山城懐古史」	平成17年6月23日
541	七戸	ななと	#####	本山町		地検帳にも七戸、七人の住まい七軒が記録。汗見川の山深い傾斜地に7軒の住家が並ぶ	「長宗我部地検帳」 「吉野風土記」	平成26年9月8日
124	蛇野	はめがの	#####	本山町		本山白髪山の小字。蛇は古来神霊の化身。毒をもった蛇を方言で「はめ」		#####
505	古田	ふるた	#####	本山町		伊勢国古田出身の古田氏、右城氏の一族が屋島の敗戦で潜入・開拓し、故郷の同じ地名を	「長宗我部地検帳」 「本山風土記」岡林裕彦	#####
629	本山	もとやま	#####	本山町		中世から近世は本山郷。その領主が本山氏。讃岐の本山郷から山越えて転移命名されたか	「高知県管内 土佐国地誌略」 「土佐名家系譜」寺石正路	平成28年9月5日
535	屋所	やところ	#####	本山町		この地にきて集落をひらいた毛利氏の居所を屋敷所といい、略して「屋所」と呼ばれた	「長宗我部地検帳」 「吉野風土記」長野徳次	平成26年7月28日
477	山崎	やまさき	#####	本山町		長岡郡介当名に山サキ。阿州山崎村から麻の種を移植栽培、集落も山崎。助藤も阿波の開拓者	「長宗我部地検帳」 「本山城懐古史」	平成25年3月18日
522	吉野	よしの	#####	本山町		元は河内の武士の川村氏。本山へ落ち延びたが、南朝への忠誠から吉野と	「新本山の歴史」第2分冊	平成26年4月14日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
365	小金滝	こがねだき	#####	大川村		高知で一番落差のある滝。厳しい冬、飛び散った滝水が枝葉に氷結し日差しに輝くさまが由来	「大川村史」	平成22年9月13日
429	芥川	あくたがわ	#####	土佐町		中世、この地に入った芥川左馬之助の名に由来。氏の故郷は摂津国芥川村で楠木正成の従者	「土佐町史」	平成24年2月13日
79	アメガエリの滝	あめがえりのたき	#####	土佐町		高さ15m幅10m余り四国の滝で一番。滝から先へは遡れない”アメゴ帰りの滝”。類似の地名は鮎に多い	武市伸幸「四国の滝めぐり」 「土佐州郡志」	#####
426	黒丸	くろまる	#####	土佐町		土佐町の奥深い集落に、九良丸・十郎丸の兄弟がやってきて、九良丸が開拓し住み着いた地	「土佐町史」所収・三宝山御由来記	平成24年1月23日
77	早明浦	さめうら	#####	土佐町	ウラ	古くは鮫浦・早明羅。ダム湖に沈んだ、夜明けの早い集落。「さめ」は「覚め」？ウラは先端・側・方向。	川村「収子」から「さめ」 「高知県方言辞典」 徳引「土佐の地名」 「本山城懐古史」 「南路志」8巻 「おらんく話」	平成16年11月4日
605	田井	たい	#####	土佐町		中世以前からこの地にあった竹林寺の末寺「田井坊」が由来。桂井氏は田の結（助合習俗）	「南路志」8巻 「おらんく話」	平成28年2月22日
714	高須	たかす	#####	土佐町	鷹巢	「鷹巢之儀を以在所ノ小ホノギ高須共名付」と皆山集に由来物語。「南路志」鷹や鷺が子どもをさらったと記録	刊本「皆山集」第1巻 刊本「南路志」第4巻	平成30年9月3日
433	森	もり	#####	土佐町		佐町役場を中心にした広い地域、森郷。江州の森頼宝が土居にきて領し、長磯を改め森村	「森村史」長野千春	平成24年3月12日
297	相生町	あいおいちょう	#####	高知市		香川出身の前川秋三さんが開業した店近辺を故郷にちなみ相生町と私称、昭和に公称地名	「高知市史」中巻 前川種苗社史「土佐の園芸と共に八十八年」 「高知市歴史散歩」松岡吉一郎	平成21年5月12日
435	青柳橋	あおやぎばし	#####	高知市		高知市街と五台山を結ぶ。明治4年に420mの板橋の賃取橋として架橋し2年後に青柳橋。由来不詳	「武市佐市郎集」5巻 「比山集」10巻	平成24年3月26日
412	赤石町	あかいしちょう	#####	高知市		地検帳にも赤石とある。鏡川の分流で、水辺には赤い岩が露出していたことから「赤岩」地名	「長宗我部地検帳」 「郷愁野史」吉岡幸馬	平成23年9月26日
123	柏	あこめ	#####	高知市		浦戸湾に面した入り江で、漂着スペイン船サン・フェリペ号の衣類を浜辺に干したことによる。柏は下着のこと	「南路志」	#####
72	朝倉	あさくら	#####	高知市	クラ	くらは谷の古言。宮ノ谷、水汲谷、大谷、針木谷と「浅いクラ」が集まった土地から「あさくら」。風土記逸文	「土佐史談」第60号・安岡源	平成16年9月30日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
1	旭	あさひ	#####	高知市		明治21年の合併地名、十一月の九日に五ヶ村連合約成ってその日(九日)に因む旭の字	「旭小学校の百年」	平成15年4月3日
378	網代谷	あじろだに	#####	高知市	アジロ	荒倉峠から朝倉に流れる谷。遠い昔、入り海に谷が流れ込んだ。網代は魚を追込む仕掛け	「土佐州郡志」	#####
36	薊野	あぞうの	#####	高知市	アズ	野アザミの里が通説。筋は薬草のクコ。別説は海が入り込む浅海・あさみ説。崩れた岸や崖のあず(坍)説も	徳弘勝「高知市の地名」 川崎誠樹「薊野の今昔」 小川豊「崩壊地名」	#####
250	愛宕	あたご	#####	高知市		寛永6年、京都の愛宕神社からこの地に勧請されその山を愛宕山、麓を愛宕と呼ぶようになった	本居宣長「古事記伝」	平成20年4月22日
610	荒倉峠	あらくらとうげ	#####	高知市	クラ	高知城下から西へ向かう最初の難所。「くら」は険しい岩場のある谷あい。まさに荒倉の地名	「桂井和雄土佐民俗選集②」	平成28年4月4日
626	井口	いぐち	#####	高知市		江ノ口川の小高い山に天正のころ本山氏の重臣、井口勘解由の居城が。城主の名にちなんだもの	「高知市史 中巻」 「土佐物語」	平成28年8月1日
669	池	いけ	#####	高知市		紀貫之の時代、ここ辺りまで海で住吉池などに名残り。近年、医療センター、県立大学、望海ヶ丘団地など開発	鹿持雅澄「土佐日記地理弁」 吉田東吾「大日本地名辞書」	平成29年8月7日
570	石立	いしたて	#####	高知市		鏡川南岸、石立八幡宮の森か岩戸の岩場に見る岩盤に由来か、現在は堤防の下に埋没	「南路志」8巻 「郷愁野史」吉岡幸馬	平成27年5月18日
397	一条橋	いちじょうばし	#####	高知市		大津御所の主であった一条内政の一条に因んだ名。欄干には同家の藤の家紋が刻まれている	「大津の歴史」	平成23年5月30日
361	一の谷	いちのたに	#####	高知市	イチ	宇津野の奥、北山のふもとから一番初めの谷、一の谷の由来? 「いちのー」は各地にある	「秦村誌」	平成22年8月16日
83	一文橋	いちもんばし	#####	高知市		江ノ口川の下流に庶民が架けた銭一文の賃取橋。賃の安さから「一文橋」。賃取橋は潮江橋・青柳橋・新京橋も	河田小龍「高知市街全図」	#####
111	一宮	いっく	#####	高知市	一ノ宮	土佐国の「一の宮」。イチノミヤが一般的でイックと読むのは少ない。神への奉仕「斎く(いつく)」由来か	「角川日本地名大辞典」	平成17年7月21日
678	今井	いまい	#####	高知市		地検帳に今井左近の給地記録がある。元親の重臣今井勘解由則正の居城地に由来。鏡ダムを見下ろす今井城跡	川村深水「土佐伝説⑳」1940年	#####

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
403	伊予川	いよがわ	#####	高知市		荒倉トンネルの南に西権現(天水分地水分神社)の湧水。伊予から流れてきている言い伝え	「南路志」	平成23年7月11日
597	岩崎橋	いわさきはし	#####	高知市		風や波が立って獵師を難儀させた岩の突き出た岬を岩崎。塩屋崎、津の崎と合わせて三崎	「土佐物語」	#####
227	宇賀	うが	#####	高知市	ウカ	宇賀神社が鎮座していたことに由来。ウカは古くはウケで食物の意で稲の霊を祭った神社	「吾南の名勝」 本居宣長「古事記伝」	平成19年11月6日
583	鵜来巢	うぐるす	#####	高知市		学芸高校の北山。土佐国古城略史では、鵜来巢弾正という豪族がとりで(壘)を築き鵜来巢山	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「土佐国古城略史」	平成27年8月24日
483	潮江	うしおえ	#####	高知市		平安後期の潮江庄。広々とした入り海からひねもす潮が打ち寄せる入り江「潮江」	「高知県歴史事典」 「潮江村誌」	平成25年5月13日
445	内ノ谷	うちのたに	#####	高知市		地検帳には「内谷」。谷間の地に由来。集落の氏神、内ノ谷天満宮は蟹が運んだ神様と伝承	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「春野町史料 第一集」	平成24年6月11日
540	宇津野	うつの	#####	高知市		ウツ、ウトは空、虚ろと語源が同じで、周りを山に囲まれた袋状の地形。宇津野もそんなたたずまい	「長宗我部地検帳」 「秦史談」66号 「日本の地名」筒井功	平成26年9月1日
376	梅ノ辻	うめのつじ	#####	高知市		街路が棧橋、駅前、塩屋崎、天満宮、役知町への五つ辻。潮江天満宮ゆかりの梅の花に見立て	「高知市史跡めぐり」	#####
526	海老ヶ橋	えびがばし	#####	高知市		周辺は海老楨と言い山手に海老川の集落が。朝倉と神田の境の山に恵美氏の居城「恵美城」	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「土佐国古城略史」	平成26年5月19日
161	追手筋	おうてすじ	#####	高知市		初めは「大御門筋」。享保12年大火で再建し追手御門に改称。城の正門を大門・大手・追手	「山内家史料 歴代公紀綱文集」	平成18年7月27日
90	大石谷	おおいしだに	#####	高知市		五台山と仁井田のちょうど境あたりが大石谷。土佐の名家大石一族の居所。大石甚吉の墓もある	寺石正路「土佐名家系譜」	平成17年2月17日
589	大川筋	おおかわすじ	#####	高知市		大川(江ノ口川)のほとりに連なった町筋「大川淵」が大川筋に。鏡川は南川と大川に応ずる称	「長宗我部地検帳」 「高知城」高知城書懐徳館	#####
339	大小路	おおしょうじ	#####	高知市		地検帳にも大小路。東西南北に大小の道が通る。ショウジ、コウジの読み混在	「長宗我部地検帳」 「春野町資料第一集」所収・ 吾川郡弘岡下ノ村村誌	平成22年3月16日



土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
299	大原町	おおはらちょう	#####	高知市		昔は中川原、御大典記念運動場の設立にあわせ、御大典の「大」と中川原の「原」を合成	「高知市史」中巻 「高知市議会史」上巻	平成21年5月26日
525	大利	おおり	#####	高知市		古は大寺、中世は大理、現在は大利。この地の領主大寺民部之祐のオオジからオオリに転訛	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「土佐伝説」24号	平成26年5月12日
119	大鋸屋橋	おがやばし	#####	高知市		建築修繕にあたる藩作事方の大鋸屋方(建築用材の調達)にちなみ命名。菜園場と九反田の堀川に架かる橋	「皆山集」	平成17年9月15日
153	御倉橋	おくらばし	#####	高知市		長浜川右岸、水運により藩の年貢米を米倉に貯蔵したことに由来。兼山ゆかりの土木事業	「吾南の名勝」	平成18年6月1日
406	雄幸橋	おさじばし	#####	高知市		ライオン宰相浜口雄幸にちなんだ地名。「幸(さち)」と決めてたが男のため「雄幸(おさち)」	「浜口雄幸伝」関根実	平成23年8月8日
33	小津	おづ	#####	高知市		大津、中津、小津も海に面する入り江で、小津は文字どおり「小さな港」。藩政期は尾戸で土佐焼の発祥の地	「南路志」 丸山和雄「土佐の陶磁」	#####
65	加賀野井	かがのい	#####	高知市		今は有数の住宅団地。古くは一豊に従って入国した家老・加賀野井氏の持ち山。木曾川の急流の意味	「加賀野井台地20年のあゆみ」	平成16年7月22日
374	鏡岩	かがみいわ	#####	高知市		朝倉から荒倉峠(鷓坂)を越え幡多に向かう中村街道の朝倉側の通称。往来の姿を映した鏡岩	「土陽淵岳誌」植木拳因	#####
2	鏡川	かがみがわ	#####	高知市		五代藩主が名付け親。鴨部河、雁切川、大川、潮江川などの別称も。もとは物部川、新莊川	竹内重意「太郎丸昔物語」 松野尾章行「土佐国白灣往来」	平成15年4月10日
276	鹿兒	かこ	#####	高知市	カコ	昔、船の乗組員である「水主」と書いて「カコ」と呼んでいた。カは楫(かじ)、コは人の意	「土佐日記」 広谷喜十郎「高知市歴史散歩2」	#####
310	梶ヶ浦	かじがうら	#####	高知市	カジ	地検帳にはカチカ浦村。鍛冶浦、柁ヶ浦なども。鍛冶屋が住む海の集落「鍛冶屋浦」の転訛	「長宗我部地検帳」 「吾南の名勝」	平成21年8月11日
23	桂浜	かつらはま	#####	高知市		古くは勝浦浜で勝は「潟(かた)」あるいは「片」。古代中国の「月の桂」の伝承にちなみ文人らが「桂浜」	片桐洋一「歌枕歌ことば辞典」	平成15年9月18日
551	金田	かなだ	#####	高知市		州郡志に金田潮田。寛永年間、金田源右衛門が築堤し干拓地を造成。名字が地名に	「土佐州郡志」	#####

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
229	蟹越	がにごえ	#####	高知市		地検帳にカニコエ山とある中世以前の地名。カニの大群が越えた峠を蟹越の由来。	「おらんく話」 「土佐地域文化」3号所収・三宮凱温	#####
144	金子橋	かねこばし	#####	高知市		グランド電停と升形のあいだ、旧武家屋敷の郭中。金子弥右衛門の武家屋敷にちなんだ地名	「土佐名家系譜」	平成18年3月23日
399	鎌研	かまとぎ	#####	高知市		中秦泉寺の北山の山裾。文字どおり、鎌を研いだことに由来する地名。山仕事前の大切な準備	「秦史談」162号 「皆山集」	平成23年6月13日
388	亀割	かめわり	#####	高知市		地検帳には亀ハリ。“川目”は網の目の水路、開墾をハリ(墾り)。川目墾りが「亀割」と転訛	「長宗我部地検帳」 「土佐の地名」	平成23年3月28日
213	鴨田	かもだ	#####	高知市		鴨部村と神田村が明治の合併で、「鴨田村」と「神部村」の二案をくじで決定	「鴨田小学校百年誌」	平成19年7月31日
347	唐谷	からたに	#####	高知市		地検帳にはカラ谷。日影地のカウラが転訛しカラ、日当たりの良くない谷	「長宗我部地検帳」 「五台山誌」 「浜口雄幸伝」関根実	平成22年5月11日
78	唐音	かろうと	#####	高知市	カロウト	勾配の緩やかな切り通しの道「空峠」の転訛。同地名が各地にある。兼山ゆかりの春野治水の旧跡が「唐音」	桂井和雄「おらんく話」	#####
92	勘定	かんじょう	#####	高知市		宗安寺や行川のお百姓が高知城下で担ぎ売りした帰り道ここで一息、銭勘定をした休み場。鏡川右岸の集落		平成17年3月3日
117	勧進橋	かんじんばし	#####	高知市		井口町の小橋。勧進は寺社の建立修復のため金品を広く募ること。渡り賃(橋銭)を寺社寄進にまわしたか	「土佐国群書類従⑦」	平成17年9月1日
510	京町	きょうまち	#####	高知市		京都の呉服商、井筒屋などがやって来て住んだことから「京町」。藩政以前は「城畑・城端」	「高知風土記」 「土佐と南海道」 「南路志」	平成26年1月20日
49	工石山	くいしやま	#####	高知市		古くは「喰石山」「久以志山」。山腹に奇岩が多く「奇しき石の山」と雅称したのが転生したか。	「皆山集」 桂井和雄「おらんく話」 「土佐州郡志」	平成16年3月25日
201	釘抜	くぎぬき	#####	高知市	釘貫(くぎぬき)	釘貫は柱を立て横木を貫きとおした簡単な柵。防護柵か土豪屋敷でもあったのでは	「土佐国群書類従⑨」所収・ 「直諒紀行」 「長宗我部地検帳」	平成19年5月8日
478	久万	くまい	#####	高知市	クマ	久万山の麓まで海が入り込み奥まった所に集落形成。奥まった地形から「隈・クマ・久万」	「久万郷土談」森田稔	平成25年3月25日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
332	車谷	くるまだに	#####	高知市		明治以降、水車の稼働を始めてからの呼称。高知城下最初の水車は元禄年間、上町の車瀬	「秦史談」15号	平成22年1月26日
13	車瀬	くろませ	#####	高知市		綿の実を搾って油を取った高知の水車発祥の地。元禄十二年、長泉寺の溝の流れを利用	岡本真古「事物終始」(皆山集所収)	平成15年6月26日
89	介良	けら	#####	高知市		土佐国長岡郡の九郷の一つ「気良郷」。のち源希義の流摘の地が「介良庄」。キク科の古名ウケラの自生地?	徳弘勝「高知市の地名」	平成17年2月10日
66	弘化台	こうかだい	#####	高知市		もとは巖島。幕末弘化年間に築かれた台場で現在は高知市中央卸売市場。竹島には大がかりな鑄立場もあった	寺石正路「土佐民間科学者伝」	平成16年7月29日
389	紅水川	こうすいがわ	#####	高知市		高知西北部を東へ流れ久万川に合流している。鉱物か何かが水に溶け込んでいたためか	「土佐伝説」21号22号所収・隈川漁事	平成23年4月4日
136	神田	こうだ	#####	高知市		各集落の神社のために耕作される田地が神田。鴨部にある式社・郡頭神社にちなんだものか	広谷喜十郎「土佐史の神々②」	平成18年1月26日
300	高知	こうち	#####	高知市		大高坂山を一豊時代に「河中山=こうちやま」と呼んだのが由来。高智山、高知に転訛	「山内家史料 忠義公紀」 「山内家史料 歴代公紀鋼文集」	平成21年6月2日
45	甲殿	こうどの	#####	高知市		かつて吾川郡の郡役所(郡戸=こおど)の地?川渡?海辺に流れ着いた住吉大明神の「かむどの・神殿」の転?	徳弘勝「ふたつの浮津から」	平成16年2月26日
160	啞内	こうない	#####	高知市		地名の由来は「神内」。朝倉神社の神田のある神の領域の地。	「高知市の地名」	平成18年7月20日
178	鴻ノ森	こうのもり	#####	高知市	コウ	古くは神森、高森、河森、今でも神ノ森、高ノ森。信仰の山、雨乞いの森、コウノトリの山	「土佐の地名」 宮地森城「土佐国古城略史」	#####
500	五台山	ごだいさん	#####	高知市		聖武勅願により僧行基が竹林寺を開創、中国山西省の文殊菩薩の霊山、五台山にちなむ	「南路志」 「十市村古事考」	平成25年10月7日
208	御殿	ごてん	#####	高知市		中村街道のそば。往来する藩役人の宿泊所を「御殿」と呼ばれ地名化したもの。	「春野町史」	平成19年6月26日
420	寿町	ことぶきちょう	#####	高知市		30番札所安楽寺の近く、古くは医師、島寿庵の屋敷に因んで寿庵屋敷、寿屋敷、通称で寿町	「高知市史」中巻 「皆山集」9巻 「寺田虎彦 妻たちの歳月」	#####

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
327	西畑	さいばた	#####	高知市		仁ノ村に属していた頃、山を隔てた西側の集落。耕地の多くは畑だったことから「西畑」	「春野町史料 第一集」所収・西畑村誌	#####
549	幸町	さいわいちょう	#####	高知市		昭和56年に新しく生まれた町。発展する松下電器の門真市にあやかり幸之助の一字を	「宿毛市 集落の歴史と文化財」橋田庫欣	平成26年12月1日
350	堺町	さかいまち	#####	高知市		山内入国後、和泉国の堺から来た呉服商人の住んだ町。摂津、河内、和泉の三つの境から境	「高知市史」中巻 「高知風土記」	平成22年6月1日
328	栄田町	さかえだちょう	#####	高知市		地元では勝手に栄町と呼び合う。町名整理で、堺町との混同を避け田を加えた新町名に	「高知市史」中巻	#####
488	桜馬場	さくらばば	#####	高知市		高知城の西側に1661年造設。長さ180m、幅11mの馬場で左右には桜が植わる「桜馬場」	「土佐州郡志」 「桜史」山田孝雄	平成25年6月17日
349	雑喉場	ざこば	#####	高知市		この地に魚市場があり雑魚を売買するところ「雑魚場」に難しい漢字を当てる	「高知沿革略志」松野尾章行	平成22年5月25日
354	佐々木町	ささきちょう	#####	高知市		県出身者唯一の侯爵で明治政府高官の佐佐木高行氏の邸宅跡があり、氏を誇りとして町名に	「高知行政区画変遷史料集」 「高知市史」中巻	平成22年6月29日
503	貞永	さだなが	#####	高知市		長宗我部の家臣、今井則正が城を築き、山あいになく長い田を開墾した「狭田長」が貞永	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「土佐伝説」24号	#####
580	三軒家	さんげんや	39403	高知市		高知市長浜に住んだ竹島家の「三軒の家」が文字どおり並んでいた。近くには七軒屋の地名も	「吾南の名勝」	平成27年8月3日
370	散田	さんでん	#####	高知市	散田	土佐では荒地にひらかれた田、荒廃した田地が「散田」。鷹匠町の散田は潮江農民の苗代田	「潮江村誌」	平成22年11月1日
364	三ノ丸	さんのまる	#####	高知市	丸	二代藩主山内忠義の側室寿性院の墓所地。三の丸様と呼ばれていたことに由来		平成22年9月6日
12	思案橋	しあんばし	#####	高知市		城下への西の玄関口玉水新地。どの道行こうか？東京吉原遊郭にも長崎丸山遊郭にもある	「土佐州郡志」	平成15年6月19日
577	塩屋崎	しおやざき	#####	高知市		鏡川の南岸、二代藩主の頃、塩田がひらかれ、塩を焼く小屋(塩屋)が立ち並んだ。塩屋の先祖九右衛門説も	「高知市誌」 「高知市史 中巻」	平成27年7月6日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
582	敷ノ山	しきのやま	#####	高知市	シキ	岩石をめぐらしたヒモロギ(神籬)の場所。神籬は神を迎える祭りの場、「シキの神籬」	「土佐の地名のメモ」	平成27年8月17日
43	治国谷	じごくだに	#####	高知市		もとは「地獄谷」で好字をあてたもの。石灰岩の白く切り立った断崖が異様であったことから地獄谷	角川日本地名大辞典 <sup>39</sup> 高知県	平成16年2月12日
314	地蔵橋	じぞうばし	#####	高知市		寛政十年の年号が刻まれたお地蔵さんに由来。現在のしばてん地蔵は、地震により二台目	「五台山誌」 「土佐のお地蔵さん」	平成21年9月8日
165	志那禰	しなね	#####	高知市		土佐神社で最も重要な祭祀の俗称が「しなねさま(志那禰)」。新稲献上のいいねの転訛	「古事記」 「南路志」 「高知県歴史事典」	平成18年8月24日
413	柴巻	しばまき	#####	高知市		坂本龍馬ゆかりの地。芝を名乗る一族が住んだ集落?シマキの強風が吹き付ける集落?	「高知市の地名」 「土佐史談」61号所収・安岡源一	平成23年10月3日
263	下知	しもじ	#####	高知市		古くは入り江が深く湾入し知寄ヶ淵、上知寄、下知寄があった。下知寄を略し「下知」	重松実男「稿本 高知市史」	平成20年8月5日
345	自由の松原	じゆうのまつばら	#####	高知市		明治の豪商川崎家の別荘地。板垣退助と谷干城の大激論にちなみ昔をしのんで命名	「土佐史談」60号 「維新後に於ける名士の逸談」	平成22年4月27日
536	十六	じゅうろく	#####	高知市		行川の上流に「土佐郡十六村役場跡」の碑。明治22年領家郷の16の村が合併	「高知県行政区画変遷史料集」	平成26年8月4日
563	城ヶ森	じょうがもり	#####	高知市		本山郷を本拠地とする武将本山氏が南の平野部に進軍するときの一宿城。高知市が一望	「高知市の城跡」 「土佐州郡志」 「土佐物語」	平成27年3月23日
637	勝負川	しょうぶのかわ	#####	高知市		地検帳にもない由来不明な「勝負川」。神田川近くの湿地の「菖蒲」?元親と本山氏の合戦場?	「高知市史 上巻」	#####
524	城山	じょうやま	#####	高知市		鏡川から南に石立城、神田南城など。神田勘助が守った石立城は「城山」と称された	「土佐国古城略史」	平成26年4月28日
634	白土峠	しらつちとうげ	#####	高知市		高知城下を起点とした重要な往還道。白土は漆喰、その原料となる石灰岩の白い地層に由来	「土佐州郡志」 「土佐の峠風土記」山崎清憲	#####
363	白水	しらみず	#####	高知市		介良、鉢伏山の西山裾。地検帳にはシラ水とあり、清く澄んだ水、白水(はくすい)の訓読み	「長宗我部地検帳」 「介良風土記」橋詰延壽	平成22年8月30日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
616	白岩	しろいわ	#####	高知市		古くは土佐郡白岩名。石灰岩の巨石や鍾乳洞のが由来。石、岩、土の色にまつわる地名は多い	「鏡村史」 「土佐の史蹟名勝」	平成28年5月16日
351	新市町	しんいちまち	#####	高知市		元親が岡豊から住民を移住させてつくった町。国分寺の縁日市に由来。高知最初の町	「稿本 高知市史」重松実男 「高知沿革略志」松野尾章行	平成22年6月8日
91	秦泉寺	じんぜんじ	#####	高知市		秦氏の居住地で泉のわき出る寺があった。「ハダ(秦)ノ泉寺」が地名に転訛。安芸岩佐・幡多清水とで三清水	植木拳因「土陽淵岳誌」	平成17年2月24日
113	新屋敷	しんやしき	#####	高知市	新屋敷	旧地名・石亀が元文元年農家の移住地となる。新たに入植し家を建てることから「新屋敷」。伊達兵部の配所？	「武市佐市郎集⑤」土佐事物史 「土佐国群書類従⑤」	平成17年8月4日
134	杉井流	すぎいる	#####	高知市		”ゆる”は水門の土佐言葉。弥右衛門の一角の低湿地帯の目印となっていた杉に由来。	坂本正夫「高知県内の河川関連地名」	平成18年1月12日
401	太古橋	たいこばし	#####	高知市		明治20年、逢坂峠を越える新道の久安川に架ける橋の石材に大塚古墳の天井石を転用	「土佐神道考古学」岡本健児 「一宮 未来へ翔る」	平成23年6月27日
653	太子	たいしょう	#####	高知市	太子	土佐市新居の小集落。聖徳太子を祀った太子堂が由来。高岡庄は大阪四天王寺の寺領であり、6カ所の太子堂がある。	「探訪」創刊号・仁淀川歴史 「土佐州郡志」	平成29年4月3日
622	高須	たかす	#####	高知市		州郡志に「高洲村」。元は海で土砂が堆積し砂州が形成され「高洲」と呼んだ。二期作の草分け地	「土佐州郡志」 「高知県誌」永瀬潔 「高知市史 中巻」	平成28年6月27日
581	高見	たかみ	#####	高知市		筆山の南、潮江の地。菅原道真の嫡男高視の由來說は鹿持雅澄が否定。潮江を見渡す地形地名	「皆山集」1巻 「高知市史」 「土佐国群書類従」1巻	平成27年8月10日
8	種崎	たねざき	#####	高知市	トネ	戸の崎、ト(門・戸)は土地が両方迫り狭くなった水運路？刀禰(船長)の居る崎、刀禰崎	山本笹樹「十市村古事考」 「三里のことも」 寺田虎彦「郷土随筆集」	平成15年5月22日
443	田辺島	たべしま	#####	高知市		国分川の低湿地「ドベ」島、タベ島=田辺島説？大和朝廷の直轄地の農民である「田部」説？	「高知市の地名」 「土佐の地名」	平成24年5月28日
559	玉水町	たまみずちょう	#####	高知市		指折りの花街、玉江新地と玉水新地。鏡川の清流に面した「玉水」は清らかな水の意味	「武市佐市郎集①」	平成27年2月23日
158	絶海	たるみ	#####	高知市	タルミ	古くは”垂水”。タルミはハラミ・孕と対の地名ともいう。吸江寺絶海にちなんで字を充てる	「土佐州郡志」 「高知市史研究」3号 「皆山集」	平成18年7月6日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
187	丹中山	たんちやま	#####	高知市	タン	土佐の藩医谷中庵(たにちゅうあん)の墓に由来説。丹(たん)は赤い土、この山肌に由来	前田秀徳「龍馬、原点消ゆ。」 平尾道雄「土佐医学史考」	平成19年2月1日
155	月の瀬橋	つきのせばし	#####	高知市		北岸の築屋敷の”ツキ”と南岸の河ノ瀬の”ノ瀬”を合せ、鏡川に映る月から「月の瀬橋」		平成18年6月15日
234	鶴田	つるた	#####	高知市		元親が鶴を飼ったことに由来とあるが、元親記や土佐物語には見えない。東洋謫居の地	「吾南の名勝」 福島成行「吉田東洋」	#####
274	土居町	どいまち	#####	高知市		潮江城の城主、森近江守の土居があったから。土居は、土塁あるいは土豪の屋敷の意	「土佐国古城略史」 入江正雄「詒謀記事」 「高知市史」	#####
308	唐人町	とうじんまち	#####	高知市		朝鮮出兵の際、元親が連行した80人余りの朝鮮人が住んだ町。豆腐コンニャクの製造が家業	「長宗我部元親」平尾道雄	平成21年7月28日
355	轟橋	とどろきばし	#####	高知市	轟	高知市西秦泉寺と三園町の間を流れる名切川に架かる橋。橋のたもと、轟神社の社名による	「土佐の神仏巡拝」市原麟一郎	平成22年7月6日
315	戸の本	とのもと	#####	高知市		長浜から春野またがる広大な土地を所有する宇賀長者の門前、戸の表、家の前という意味	「吾南の名勝」	平成21年9月15日
391	戸原	とばら	#####	高知市		「トバラは苦原(トマハラ)から」。苦はスゲヤカヤなどの草を編んで屋根を葺いたもの	「長宗我部地検帳」 「はるの昔ばなし」	平成23年4月18日
138	鳥越	とりごえ	#####	高知市	タオリ	渡り鳥の通う道。峠の”たおり”が”たおり(峠)越え”を意味する鳥越に転訛した説も	「土佐の地名」 松尾俊郎「地形地名の知識」	平成18年2月9日
112	中須賀	なかすか	#####	高知市	スカ	鏡川の下流域に土砂が堆積してできた土地。「す」は州で、“ありか”“すみか”の「か」は場所。中州の処		平成17年7月28日
676	長浜	ながはま	#####	高知市		太平洋沿いに延びる長い浜辺に由来。浦戸、瀬戸、横浜と周辺には海に関係した地名が多い	大久保千濤「吾南の名勝」 1931年	平成29年10月2日
319	名切川	なきりがわ	#####	高知市		地検帳にはナキリ。遠い昔は海岸線で「浪切り」では?そんな景色は春野にも菜切とある	「長s壁地検帳」 「秦史談」151号	#####
104	七作倍	ななさばい	#####	高知市		朝倉城で討死した七人の侍の埋葬地「七つの三味場」から転訛。三味場は死者を葬る場所。七作倍神社がある。	「土佐州郡志」	平成17年6月2日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
464	行川	なめがわ	#####	高知市	ナベ	県内に残る「なべ地名」。平坦な川底の故に滑らかな水流がナベ、ナメ。床鍋、平鍋、行川	「おらんく話」	#####
42	縄手	なわて	#####	高知市		縄のように細い道(縄道)、田んぼのなかの道(苗道)まっすぐに伸びた道(直道)など古代条里制に由来		平成16年2月5日
493	廿代町	にじゅうだい まち	#####	高知市		江ノ口川の南岸に開かれた田地のホノギが廿代。寛永年間には町となる。大工頭の屋敷地?	「皆山集」所収・高知風土記/ 韓川筆話	平成25年7月29日
472	入定	にゅうじょう	#####	高知市		僧が飲食を断ち無念無想の境地から入滅すること「定に入る」。その遺徳をしのび地名となる	「土佐州郡志」 「秦史談」66号 「南路志」	平成25年2月4日
515	布師田	ぬのしだ	#####	高知市	布師	国分川に近い森に古社葛木男神社。葛木氏は朝廷に衣服を献納する布師でこの地を開墾	「布師の里」森沢富寿・栄晴	平成26年2月24日
85	根宜谷	ねぎたに	#####	高知市	ネギ	地検帳にもネキカ谷・ネキヤシキ。禰宜=神官に給された田が由来。禰宜の原意は「祈ぐ・労ぐ(ネ)」で労う	「春野風土記」第9集所収(村田精一郎「諸木八幡宮の御神幸」)	平成17年1月13日
18	乗出	のりだし	#####	高知市		家老や藩士がここから馬を走らせたことに由来。本町筋に「御櫓(おやぐら)」「馬廻(うままわし)」地名も	「武市佐市郎集⑤」	平成15年7月31日
393	幡多倉橋	はたくらばし	#####	高知市		山内家支藩(中村三万石)の粳米の倉に由来。中村支藩は綱吉の勘気にふれ取りつぶしとなる	「土佐州郡志」 「土佐好古史談」寺石正路	平成23年5月2日
439	八幡通	はちまんどおり	#####	高知市		江ノ口川の山田橋から南北に延びる通り(明治33年)の通称。通りの北詰にある高知八幡宮に由来	「高知市史」中巻	平成24年4月23日
188	刎橋	はねばし	#####	高知市		梃子の作用で橋脚を支えた橋。1688年に架橋された300年歴史の橋	「南路志」 「土佐州郡志」	平成19年2月8日
441	刎橋	はねばし	#####	高知市		中秦泉寺、前里、愛宕山の境に架かる橋。急流の勢いをそぐ工夫されたハネ(撥ね)に由来	「秦史談」70号	平成24年5月14日
44	孕	はらみ	#####	高知市		浦戸湾をはさんで東西の海原の見える所が「原見」。その後詩人が「孕」の字をあてたことによる。かつては桜の名所	「高知市史 中巻」 「皆山集」	平成16年2月19日
64	針木	はりぎ	#####	高知市	ハリギ	針のある木が多く自生していた、「はり=見張り」「ぎ=城」で出城の地。ハンノキを開拓の意に懸けてハリギ	徳弘勝「高知市の地名」 武田久吉「民俗と植物」	平成16年7月15日



土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
3	春野	はるの	#####	高知市	ハル	墾る野。野中兼山への敬愛は、兼山を祭る春野神社となり、昭和32年の合併では春野町	「春野町史」	平成15年4月17日
52	番所	ばんしょ	#####	高知市		朝倉に番所のバス停があり、高知城の西の玄関口。国境の道番所(86所)と主要道筋に二里ごとの送り番所	「高知県歴史事典」	平成16年4月15日
157	日出野	ひいでの	#####	高知市	悲田院	中世の悲田院(病人貧者の救護施設)の跡。「土佐幽玄考」に悲田院野の訛りとある。	「土佐幽玄考」 「吾南の名勝」	平成18年6月29日
518	尾立	ひじ	#####	高知市	日ノ地	古代、土佐の国造、小立足尼(ひじのすくね)にちなむ?尾立は日当たりの良い土地・日の地	「南路志」 「おらんく話」	平成26年3月17日
80	比島	ひじま	#####	高知市		山の形が簸(ひ。箕のこと)に似ている島の転。田辺島・葛島・竹島・洞ヶ島と海の上に「入海ノ十嶋」	植木拳因「土陽淵岳誌」 沢村武雄「白鳳地震」	#####
47	杓田	ひしゃくだ	#####	高知市		村の産土神・本宮神社がここに遷座したとき土地の老婆が柄杓に水を汲んで献じたことによる。びしゃだの転?	竹崎五郎「高知県神社誌」 定本柳田国男集⑳	平成16年3月11日
508	聖	ひじり	#####	高知市	聖	仁井田、大平山の南の集落。遍路を祀った祠が聖神社の起こり。県内にいくつかある	「長宗我部地検帳」 「大平山」14号・三里史談会/ 田辺壽男	#####
452	筆山	ひつざん	#####	高知市		真如寺山、潮江山、要法寺山、筆鋒山など。土佐歴代藩主の墓所。大きな筆と藩主が命名	「皆山集」8巻 「潮江村誌」	平成24年8月6日
335	瓢箪川	ひょうたんがわ	#####	高知市		土佐州郡志にも瓢箪川とある。比島を流れる川で二つに分かれ丸いくびれた流路が「瓢箪」	「土佐州郡志」 「高知市街全図」河田小龍 「旅行必携新撰高知市街地 図」	平成22年2月16日
185	昼魔ヶ谷	ひりまがたに	#####	高知市		地検帳に「ヒルマ」とある。潮入地(不干沼・ひぬぬま)が干拓された昔面影を残す地名	「潮江村誌」 「土佐傳説」27号	平成19年1月18日
638	弘岡	ひろおか	#####	高知市		高知市春野町の北西部の広い集落。弘岡上ノ村、中ノ村、下ノ村の弘岡は、広い丘陵の地の意	「長宗我部地検帳」 「高知県吾川郡弘岡上ノ村誌」	#####
544	弘岡町	ひろおかまち	#####	高知市		高知郭中七町のひとつ。弘岡村の郷民移住説?弘岡から流れ着いた夷堂を持参した浦戸説?	「高知市史 中巻」 「山内一豊公 高知開市由来」安芸喜代香	平成26年10月6日
618	福井	ふくい	#####	高知市		州郡志には戸数90戸の福井村。この丘陵地は豊かな地下水量の地、吹く井の里である	「土佐州郡志」 「郷愁野史」	平成28年5月30日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
120	吹井	ふけい	#####	高知市	フケ	武市半平太誕生の地。吹山と号していたが後に瑞山。低湿地の土地柄「ふけ＝深田」？吹き出る水「噴き井」？	「ふたつの浮津から」	平成17年9月22日
422	二瀬川橋	ふたせがわばし	#####	高知市		円行寺を流れる久万川を下ると、険しい断崖があり川を二度迂回して瀬を渡ることから二瀬川	「円行寺の史蹟と名勝」鎌倉幸次	#####
129	文庫鼻	ぶんこのはな	#####	高知市		「はな」は”海へ突き出たところ。飛脚が落した文庫が由来かも	「土佐州郡志」 「伊野・春野伝説散歩」	平成17年12月1日
386	宝永町	ほうえいちょう	#####	高知市		1707(宝永4)年の大地震。復興の新しい堤防は総延長3.6kの「宝永堤」で周辺の集落も宝永町	「高知市史」中巻	平成23年3月7日
283	法師ヶ鼻	ほうしがはな	#####	高知市	法師・傍示	法師は境界を示す杭などを意味する傍示(ほうじ)の転訛？それとも鹿が法師に化けた説	「ふるさと五台山」大野康雄「五台山誌」	平成21年1月27日
53	棒振田	ぼうふりだ	#####	高知市		朝倉神社の祭礼で「棒振り」踊りを奉納。その踊を奉納する家に与えられた神田が「棒振り田」	「針木保育園創立五十周年記念誌」 「土佐州郡志」	平成16年4月22日
203	望六峠	ぼうろくとうげ	#####	高知市	六	望六の六は、東西南北上下の六つの方角をいい、世界・天下を望めるほどすばらしい景色？	「土佐の峠風土記」 「隠語大辞典」	平成19年5月22日
323	堀越	ほりこし	#####	高知市		地検帳にもホリコシ。住吉池を田地にするための水路工事、その堀削の跡が「堀越」由来	「長宗我部地検帳」 「十市村の地名の研究」 「土佐州郡志」	#####
115	槇山	まきやま	#####	高知市		藩政の馬の牧場「馬牧」三か所(長岡郡外山・土佐郡朝倉・高岡郡浦ノ内)のひとつ。牧山の転訛	平尾道雄選集「土佐武道と仇討」 岡本真古「事物終始」	平成17年8月18日
409	松淵川	まつぶちがわ	#####	高知市		本町2丁目に松淵川公園の地名に面影が残る。侍屋敷の松の大木「宮の馬場の松」に由来	「皆山集」9巻・詒謀記事	平成23年8月29日
10	万々	まま	#####	高知市	ママ	ママは「土が崩れる崖地」「高地の側面」を呼び全国に広く分布する。	甲把瑞益「仁井田郷談」	平成15年6月5日
131	水分	みずわけ	#####	高知市		田水の論争から”論の田”と呼ばれた集落。藩主豊房が「争いをやめ水は皆で分けよ」と戒めた。	「皆山集」	#####
81	御畳瀬	みませ	#####	高知市	ミマ	日本で一番小さな村と呼ばれていた。「水間(みま)・狭(せ)」で海の流れの狭まった湾のくびれを意味した	大久保千濤「吾南の名勝」 吉田茂樹「日本古代地名辞典」	平成16年12月2日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
454	藻州潟	もずかた	#####	高知市	州潟	湾入した浦戸湾に面した集落。潮の干満によって陸地の浮き沈みする海辺。藻の多い洲潟	「吾南の名勝」	平成24年8月20日
290	百々軒橋	もものきばし	#####	高知市		楊梅(やまもの木)が多数あることに因んで面白い字を充てたという。料理屋は五十軒ほど	「五台山誌」 斎藤唱水「日記」	平成21年3月17日
128	森の下	もりのした	#####	高知市		元親家臣吉良親実、悲劇の地。主君に過あればこれを諫めるのが臣の務めと切腹。「七人みさき」の怨霊伝承も	「土佐物語」	#####
695	森山	もりやま	#####	高知市		昔、出雲の森山村から三穂神社(松江市美保関森山)を勧請してきた。はるばる出雲からきた地名。現城山神社	刊本「皆山集」第1巻	平成30年3月19日
76	諸木	もろぎ	#####	高知市		白鳳地震で海に没した黒田郡。深井戸を掘ると大きな木材が出土するそれら諸々の木々が埋まった土地から諸木	橋詰延壽「諸木の記録」 鹿持雅澄「辺海松布」 徳弘勝「ふたつの浮津から」	#####
35	弥右衛門	やえもん	#####	高知市		一豊に従って京都から来国。二代忠義の許しにより山崎弥右衛門はこの地を開拓。その恩人しのび地名で残る	福島成行「開墾者山崎弥右衛門」	#####
306	屋頭	やがしら	#####	高知市	ヤガシラ	五台山地区でどこよりも先に家が建ち、集落が形成されたところ。家(屋)の始まり(頭)	「土佐州郡志」 「五台山誌」	平成21年7月14日
418	矢取橋	やとりばし	#####	高知市	矢立	橋の北側の田んぼが矢取田。矢を立て村境を示す風習が、苗代に立て豊作を祈る習わしとなる	「大津村史」	#####
404	柳町	やなぎまち	#####	高知市		織細復興から生まれた町。来来軒、華珍園、湖月などの主人が柳並木の街にした	「月刊土佐」46号・和田健一	平成23年7月25日
459	弥生町	やよいちょう	#####	高知市		この地の開拓者、山崎弥右衛門の「弥」に開拓の感謝を込め、生活の「生」を組み合わせた	「高知市史 中巻」	平成24年10月1日
341	夕陽ヶ浦	ゆうひがうら	#####	高知市		十津の通称地名。浦戸湾から玉島に沈む夕日は地元自慢の景勝地。埋立てられ変容	「三里地区史跡報告」高知市教育委員会	平成22年3月30日
387	ゆるぎ岩	ゆるぎいわ	#####	高知市		神田川を遡上し荒倉峠に通じる道のそば、大きな角石で登って足踏みするとゴロゴロ	「高知市史跡めぐり」	平成23年3月14日
385	芳原	よしはら	#####	高知市		一面の湿地にヨシが繁茂、ヨシの原の地名がおこった。吉原が芳原には将軍綱吉に遠慮	「吾川郡芳原村誌」	平成23年2月28日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
699	米元	よねもと	#####	高知市		高知市一宮地区にある通称。地検帳には土佐郡一宮庄ヨナ本とある。元親が建てた米倉が由来か。	宮地森城「土佐国古城略史」	平成30年4月16日
416	リハビリ ティー橋	りはびり ていーばし	#####	高知市		療育福祉センターや若草養護学校子鹿園分校の近くに架かる橋。全国的に珍しい英語地名	「昭和県行政体験誌」所収・若草町物語	#####
231	領家	りょうけ	#####	高知市	領家	荘園の領主のことを「領家」と呼んだことに由来。地頭台頭により東半分は地頭分となった	「高知市史」上巻	平成19年12月4日
407	若草町	わかくさちょう	#####	高知市		朝倉の練兵場跡に農和、瑞穂の開拓団が入植。旧練兵場を嫌い、作物の緑に夢を描き改称	「高知新聞」昭和24年3月24日	平成23年8月15日
674	土川	つちがわ	#####	馬路村		古くは槌峨尾村。昔、山奥から木槌が流れその元をたずねると集落があり「槌川」。槌川勘左衛門の開拓説も	山中巖「馬路村の歴史と伝説」	平成29年9月11日
631	池ノ内	いけのうち	#####	いの町		中世以前の地名。池ノ内の意味は大体池田と同じ。池田は大概付近に灌漑用に供する池がある。	「土佐史談」60号	平成28年9月26日
371	稲叢山	いなむらやま	#####	いの町・土佐町		山頂の池に稲に似た草が生えていることに由来。安徳天皇の一行58人が隠れ住んだという	「皆山集」 「日本の地名」松尾俊郎	平成22年11月8日
82	いの	いの	#####	いの町		かつては、井能・猪野など。椋本の御神体を包んだ「みの」の転訛？椋本神社・二ノ宮の転？稲の古形イナの転	「皆山集」 徳弘勝「土佐の地名」	平成16年12月9日
719	岩黒山	いわぐろやま	#####	いの町	ぐろ	「此森石之畔（くろ）をつみたるやう成森の滝也、先年も岩畔之森と申伝候」と由来。滝は断崖のこと	「土佐郡本川郷風土記」	#####
625	うばが森	うばがもり	#####	いの町		高森山（449m）とも言う悲劇の女人、養甫尼の物語のある山。村人は優婆夷さまと敬愛して呼ぶ	「戦国の秘録」岡田明治	平成28年7月25日
57	枝川	えだがわ	#####	いの町		地検帳には朝倉庄枝郷村とある。朝倉庄に新田開発などで形成された”新しい村”枝郷が転訛し枝川に	岡田明治「いの史談」22号所収	平成16年5月27日
457	上茶屋敷	えてやしき	#####	いの町		古くは兄や姉をエ、弟や妹をオトと言った。ここに川村権太夫、右近太夫の兄弟の家が由来	「ごほく 樹と水物語」	平成24年9月10日
125	越裏門	えりもん	#####	いの町		平家の落人が「裏門」を越えて入ってきた？安徳天皇の行在所の「衛門（営門）」の転訛か	「本川村史」	#####

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
516	音竹	おとたけ	#####	いの町		集落の北山に伊野城。城主音竹千代の姓名の一字を取り「音竹」。麓には悲運の竹姫神社	「土佐州郡志」 「歴史道散歩」岡田明治	平成26年3月3日
19	思地	おもいじ	#####	いの町		表地(おもてじ)それが主地(おもじ)から「思地」に転じた。和田氏の居城・程野城の表門側を「表地」	「吾北村史」	平成15年8月7日
17	鹿敷	かしき	#####	いの町	カシキ	炊(かしき)は米を飯にすること。天神社へ食物を供える村の「炊」の転訛。天神社とは神谷に鎮座する式社	「皆山集」	平成15年7月24日
162	加田	かだ	#####	いの町		蚊の多い湿地説もある。”わだ”は湾曲した地形のこと。この川模様から「かだ」に転訛		平成18年8月3日
613	鎌田	かまだ	#####	いの町	ガマ	地検帳には蒲田。仁淀川西岸の川辺の低湿地にガマが群生。鎌田は兼山ゆかりの鎌田井筋	「長宗我部地検帳」	平成28年4月25日
67	上八川	かみやかわ	#####	いの町		「み」は祭礼などで神に供える酒でその水を汲んだ川が「みわがわ(神河)」。古老は「かみわかわ」と呼ぶ	「南路志」 「吾北村史」	平成16年8月5日
706	瓶ヶ森	かめがもり	#####	いの町		亀の甲羅に似た形をした山から亀の森と呼ばれた。瓶ヶ森は山中の甌穴のあることに由来。亀と瓶の二つの由来	「土佐郡本川郷風土記」	平成30年6月11日
93	唐越	からごし	#####	いの町	カラ	上八川川もここあたりで岩が並び水量も減少。積み荷を陸送し舟だけを空っぽで通す。川舟往来の地名	「吾北村史」 「土佐史談」194号所収・吾北村の水	平成17年3月10日
181	寒風山	かんふうざん	#####	いの町		冬季に瀬戸内側から冷たい北西の季節風が吹きつけることに由来。登山者は「かんふう」	「新日本山岳誌」	#####
368	木の根三里	きのねさんり	#####	いの町		吉野川沿いの険しい道で、土佐と伊予を結ぶ往還道。「古木巨木の根、龍蛇の如く」と	「本川村史」近・現代編 「土佐郡本川郷風土記」	#####
381	清水	きよみず	#####	いの町		険しい断崖は山岳宗教の行場で、観音像を携えた山伏が白頭山清水寺をここに建立した	「吾北村史」	平成23年1月31日
489	桑瀬	くわせ	#####	いの町		伊予西条藩との国境に境目番所が置かれた。集落を救った平家の落人桑瀬久助にちなむ	「本川の民話」	平成25年6月24日
716	子持権現山	こもちごんげんやま	#####	いの町	権現	「其形如人負子」と土佐州郡志。土佐側では人を背負ったような形状の山。伊予側は子持岩の蔵王権現を祭る由	「土佐郡本川郷風土記」 「愛媛県百科大辞典」	平成30年10月1日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
140	勝賀瀬	しょうがせ	#####	いの町		ヤブショウガに因んだ地。仁淀川往来の要所、上八川、清水への山越えの道、仁淀川の舟着き場	岡田明治「仁淀川誌」	平成18年2月23日
126	庄屋橋	しょうやばし	#####	いの町		伊野は東西に庄屋が任命。波川氏ゆかりの家が代々の西の庄屋で給地を差配した。そのたもとの橋の意味	「伊野町の文化財と旧跡」 「伊野町史」	#####
121	白猪谷	しらいだに	#####	いの町	シレイ	寺川を流れる谷。もともとは「しれいだに」と呼ばれていた。飢饉救荒食糧の彼岸花「シレイ」の咲く谷	「本川村史」 「高知県方言辞典」	平成17年9月29日
713	シラサ峠	しらすとうげ	#####	いの町		愛媛西条と本川を結ぶ交流公益の峠道。白砂糖が固まった岩石(シラザ)由来説。笹の枯れた状態”白笹”説も	「愛媛県百科大辞典」 山崎清憲「土佐の峠風土記」	平成30年8月27日
384	陣ヶ森	じんがもり	#####	いの町		古くは上八川郷を支配していた和田美濃守の山城(田野々城)。合戦で敗れたが陣が「陣ヶ森」	「土佐州郡志」	平成23年2月21日
495	漉地	すきじ	#####	いの町		文字どおり和紙にまつわる地名。若宮と八坂の2柱、思地で出会い、好地で契りの小話	「長宗我部地検帳」 「ごほく 樹と水物語」 「高知新聞」1981年5月19日	平成25年8月12日
506	砂ヶ森橋	すながもりばし	#####	いの町		宇治川は高低差が小さく早稲川合流点の川浚えし、土砂を毎年盛っていった小山を「砂ガモリ」	「歴史道散歩」岡田明治	平成25年12月2日
268	須別当	すべっとう	#####	いの町	別当	地検帳に「次別当」とある。荘園の役人「別当」に由来?地元は「地が滑る”すべっとう”」	「長宗我部地検帳」	平成20年9月30日
557	大納	だいのう	#####	いの町		農民から斗代を受け取る役割を代納といい、庄屋の森沢家が担った。同家はダイノと別称	「長宗我部地検帳」 「八田のこども」森秀樹	平成27年2月9日
193	土橋	つちばし	#####	いの町	土橋	土橋は木の橋桁に土をかぶせた橋で、増水と火災に備えた。	上田篤「橋と日本人」 「土佐国群書類従⑦」所収・ 稲毛実「三災録」	平成19年3月15日
711	手取	てとり	#####	いの町		川舟に悪さをするエンコウの手を鉈で切り落とすとたたりが多発。これを供養し、この地を手取と呼んだと由来	「吾北村史」改訂版	平成30年8月13日
726	天王	てんのう	#####	いの町		天王団地の発足とともに付けられた町名。昔この地に牛頭天王が祭られ天王山・天王谷とゆかりの小字がある	森秀樹「八田のこども」 「土佐伝説」第16号	#####
449	問屋坂	といやざか	#####	いの町		仁淀川橋のたもとに紙問屋などの商家が軒を連ねていたことに由来。伊野町第一の繁華街	「歴史道散歩」岡田明治 「地方史を歩く」横川末吉	平成24年7月9日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
369	十田	とおだ	#####	いの町		遠く分け入った山あいにはひらかれた田地集落、遠田が転訛したもの。藤田源左衛門の名字説も	「日本全河川ルーツ大辞典」 「吾北村史」	#####
15	戸中	とちゅう	#####	いの町	トチウ	飢饉に備え備荒食として栃の植樹した。栃生(とちう)の転訛が由来。	「本川の民話」 宮本常一「塩の道」講談社学術文庫	平成15年7月10日
278	中追	なかおい	#####	いの町	ウイ	山合いの一区画が「ウイ」という古語。中追七谷と言われ険しい山合いの中に開かれた田地	「土佐の地名」 「総合日本民俗語彙」	平成20年12月9日
271	根来佐古	ねごろさこ	#####	いの町	根来	根来は、全国に残る地名で峰と峰との鞍部になったところ。サコも同じ意で谷あいの窪地	池田末則「地名風土記」 「高知県方言辞典」	#####
592	登川	のぼりがわ	#####	いの町		安徳帝の落ち延び先の地名の一つ。平家平から稲叢山を目指すとき吉野川を遡ったので登川	「本川の民話」 「大川村史」	平成27年11月9日
620	バーガ森	ばあがもり	#####	いの町		「姥が森」の転訛か。バーガ森には竹姫神社が祀られ別府寺もあった。優婆塞、優婆夷の「うば」か	「広報いの」2014年6月号	平成28年6月13日
473	波川	はかわ	#####	いの町		古くは高岡郡波川村。かつて高岡郡にあった吾川郷が転じて波川になった。	「土佐国群書類従」8巻・土佐幽考	平成25年2月18日
177	八田	はた	#####	いの町	ハタ	隣の弘岡村の端から「はた(端)＝八田」。渡来氏族「秦氏」にちなむ説も	「高知県史 考古編」	#####
261	鉢巻山	はちまきやま	#####	いの町	ハチマキ	天王ニュータウンの南方の山。昔は藩主の狩場。山の八合目をハチマキと呼んでいた。	森秀樹「八田のこども」 「土佐の地名」	平成20年7月22日
95	引地	ひきち	#####	いの町	ヒキチ	庄屋など村役人扶助のため公役を免除されていた土地。庄屋らの住まいのある集落。木を挽く挽地？低地？	平尾道雄「土佐藩農業経済史」	平成17年3月24日
564	坊蔵	ぼうぞう	#####	いの町		修験山伏、坊蔵の終焉の地で祠があり小さな石像が安置。台座に「坊蔵院」、山伏に由来	「長宗我部地検帳」 「吾北村史 改訂版」	平成27年3月30日
466	仏堂	ほとけどう	#####	いの町		片岡村の武将片岡光綱が毛利と戦い討死、遺骸を埋葬した地が仏堂。悲運の武将をしのぶ地名	「吾北村史 改訂版」	平成24年12月3日
600	本川	ほんがわ	#####	いの町	モト	県境にある本川郷24村。本川は吉野川の流れの本が由来で、吉野川の別称。中世はモトカワ	「土佐郡本川郷風土記」 「大日本地名辞書」 「吾北村史」	平成28年1月18日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
567	柳野	やなぎの	#####	いの町	柳	楮と同じく和紙の原料である三極を、葉の形が類似のため「柳」と呼ぶ。ヤナギの生産地	「広報いの」2013年5月号	平成27年4月20日
651	相能	あいのう	#####	仁淀川町	アイ	仁淀川町の国道33号沿線の集落。古くは間野尾、ツクチ藪と引地の間の出張った所(尾)の意味	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「吾川村史 下巻」	平成29年3月13日
150	吾川	あがわ	#####	仁淀川町	アガワ	郡名に面影。仁淀川の「三輪河」その後「輪河」、「吾河」に転じた川名。吾は阿で大の義	山本笹樹「十市村古事考」	平成18年5月11日
241	石神峠	いしがみとうげ	#####	仁淀川町		外部からの災いが侵入するのを防ぎ、行路の安全を守るのが峠や境界に祀る石神。各地に在る	「土佐州郡志」 「長宗我部地検帳の神々」	平成20年2月19日
645	大野	おおの	#####	仁淀川町	大野・越智族	仁淀川町の大野椿山川をさかのぼった集落。嘉吉年間(1441~)に伊予大州の大野九郎次の開拓が由来	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「高知県吾川郡池川町誌」	平成29年1月23日
725	大見槍	おおみやり	#####	仁淀川町		地検帳には別枝名の大宮利村。州郡志には大見鍵村とある。平家の落人の見張り・見遣り場。視界の開けた集落	「仁淀村史」追補	#####
197	梶屋敷	かじやしき	#####	仁淀川町		和紙の梶でなく鍛冶職人でもない。奥合神社の神屋敷がなまったもの。開拓の守り神	「仁淀村史」 掛水一水「仁淀村の歴史発見」	平成19年4月10日
673	桂	かつら	#####	仁淀川町		地検帳にもカツラ。八面(やつら)という妖怪を退治した里でヤツラが転訛。桂の老樹があった由来もある	「広報によど川・集落見聞録」 ③⑧ 2009年11月号	平成29年9月4日
652	銀三橋	ぎんざばし	#####	仁淀川町		もとの吊り橋は西森銀三郎さんが私費を投じて架橋。通称”ぎんさん”に感謝の名づけ。大工の草分け篤志家	「仁淀村史 追補」 「土佐へ出稼ぎに来た長州大工に関する研究」坂本正夫	平成29年3月27日
202	家古屋	けごや	#####	仁淀川町	警固(けご)	地検帳にもケコヤ。警護の見張り小屋「警固屋」か。全国各地にある地名	「ふたつの浮津から」	平成19年5月15日
414	古城山	こじょうざん	#####	仁淀川町		仁淀川町長者の中心部の通称。中世片岡氏の山城で大イチョウのある十王堂の裏山	「仁淀村長者郷土誌」難波誠一	#####
54	桜	さくら	#####	仁淀川町		ひょうたん桜の地。大藪集落を改称して「桜」。「さ」は稲の霊。「くら」は居ますところで「神の訪れ」	「吾川村史」 桜井満「花の民俗学」	平成16年5月6日
225	猿橋	さるはし	#####	仁淀川町		猿が川を渡りだしたのを見て架けられた橋。南路志にもでてくる危橋	「長宗我部地検帳」 「南路志」	#####



土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
655	宗津	そうづ	#####	仁淀川町	ソウズ	仁淀川町吾川の集落。惣津、僧津とも。湧水の豊富な集落が由来。“そうづ”は清水、早水、草津などと書き、湧き水の出る場所	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「吾川村史 下巻」	平成29年4月17日
715	橋	たちばな	#####	仁淀川町	はな	橋は、立端(たちばな)で高く立つ山の端(はな)という意で佳名の橋を当てたと「吾川村史(下巻)」	「吾川村史」下巻	平成30年9月10日
665	谷山	たにやま	#####	仁淀川町		地勢が陰しく多くの谷間による地形説。遠い昔、干害ととき周りの村々に種子を分け与えた「種山」説もある	仁淀村史(追補版)	平成29年7月3日
37	長者	ちょうじゃ	#####	仁淀川町		阿波からやってきた富豪「長者様」にちなんで。“打つ・たたく”の「ちょうず」を意味する崩壊地名	「仁淀川村史」 小川豊「崩壊地名」	#####
668	椿山	つばやま	#####	仁淀川町		安徳天皇に忠節した武者。“つわものやま”が転訛。その後、都(仁淀川町仁淀)、横倉山(越知町)移る	伊藤猛吉「吾川の古都」1907年	平成29年7月31日
428	寺村	てらむら	#####	仁淀川町		昔は下大崎と、成福寺がここに移され新しく寺村の地名が起こった。大崎玄蕃の菩提寺	「高知県土佐国吾川郡大崎村誌」	平成24年2月6日
147	名野川	なのかわ	#####	仁淀川町		菜の花の咲く川辺?池川川と仁淀川のあいだの”中の川”の転訛?	「土佐の地名」 「吾川村史」下巻	平成18年4月13日
237	二子野	ふたごの	#####	仁淀川町		畝を間にした二つの小野を「二子野」の由来。集落は中山神社のある畝の北と南に在る	「吾川村史」下巻 「事物終始」	平成20年1月22日
425	別枝	べっし	#####	仁淀川町		別符山五名の一つ「別枝名」。寛保郷村帳では別枝を「別符山枝郷」、別途に開拓された枝郷	「故山帖」大野勇	平成24年1月16日
96	別府	べふ	#####	仁淀川町	ベフ	仁淀川中流域の村落総称が別府山。国司から開発許可を受けた中世の「特許開墾地」。別称を別符。全国に分布		平成17年3月31日
254	水ノ峠	みずのとう	#####	仁淀川町		土予往還の峠道。大師堂近くの岩間の湧水に由来。中島與一郎の悲劇の地でもある	「土佐の峠風土記」	平成20年6月3日
663	明戸岩	みょうといわ	#####	仁淀川町		明戸岩神社の土台石の二つの巨岩を”夫婦”に。集落の対岸につ対の人面顔も。この岩場クライミング100選	「長宗我部地検帳」 「高知新聞」1982年4月13日 「角川日本地名大辞典③」	平成29年6月19日
424	森	もり	#####	仁淀川町		仁淀川流域の山間部は別符山五名、森はその小村。集落の中央、小高い山が鷹森で「森」	「仁淀村史」追補版	#####

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
718	寄合	よりあい	#####	仁淀川町		池川、名野川、用居など、たびたび帰属が変わってきたなかで、一つに寄り合いまとまって生まれた集落	「高知県吾川郡池川町誌」	#####
183	両国橋	りょうごくばし	#####	仁淀川町		国道33号線、土佐と伊予にまたがる橋(大正15年3月架橋)。同じ名前は全国にある。	山頭火の日記	平成19年1月4日
228	筏津	いかなづ	#####	越知町		仁淀川中流左岸に位置し、材木を水運する筏を組む場所。津は水運の基地として港を意味する	「土佐州郡志」 「高知県内の河川関連地名」 岡田明治「仁淀川誌」	#####
29	今成	いまなり	#####	越知町	今	「今」はもともと「新たに」という意味。今成は川の蛇行地点に形成された河岸段丘。新たにできた土地の意	桂井和雄「おらんく話」	#####
277	大樽の滝	おおだるのたき	#####	越知町	樽	滝の水量の豊かさから「大樽」と呼ばれるようになった。タルはたるみ=垂水の略語	「越知町史」	平成20年12月2日
86	越知	おち	#####	越知町	オチ	越智(愛媛)、隠地(島根)と遠く隔たったところ「彼方・遠=おち」。横倉の尾根のふもと「尾方=おち」転	徳弘勝「土佐の地名」	平成17年1月20日
258	片岡	かたおか	#####	越知町		地域を支配した豪族、片岡氏にちなんだ地名。それ以前は徳光と呼ばれた。	「吾川郡明治村誌」 邑楽町広報誌「おうら」所収・細谷清吉「町の年代記」	平成20年7月1日
380	木倉	きぐら	#####	越知町		仁淀川の水運による木材を越知で上げられた。佐川の深尾氏(佐川様)の木材倉庫に由来	「わがふるさとの記」岡田光長	平成23年1月24日
588	桐見川	きりみがわ	#####	越知町		地検帳には霧深川村。木々が生い茂り霧深い川が流れる由来で旧名霧深川。桐見川に改称	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「越知町史」	平成27年10月5日
61	楠神	くすがみ	#####	越知町		日本人古来の樹木信仰。松・杉・榊・ナギ・楠など常盤木の緑の生命力は神木として神の依代となった	「土佐史談」203号所収	平成16年6月24日
648	黒森山	くろもりやま	#####	越知町		仁淀川町と越知町の境の山。松山街道が山腹を往来。黒々とした山は、安徳天皇の「白王の森」黒王の森”伝説	「たぶの木のうで」山本英三	平成29年2月20日
646	五在所山	ございしょやま	#####	越知町	在所	越知町北方の標高976mの山。山上の大山祇神は五つの在所(村)、鎌井田・片岡・十田・新別・下八川が崇敬	「土佐州郡志」 「越知町史」	平成29年1月30日
383	佐之国	さのくに	#####	越知町		南北朝戦乱で敗走した島次郎佐為は「島」の地に、弟三郎佐国(すけくに)はここに土着	「わがふるさとの記」岡田光長	平成23年2月14日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
465	清助	せいすけ	#####	越知町		地検帳にはセイスケ、清助神社が鎮座する。タヌキ退治の獵師清助にちなむ神社が地名にも	「長宗我部地検帳」 「土佐の神仏たんね歩記」市原麟一郎	#####
498	遊行寺	ゆうぎょうじ	#####	越知町		別府厚孝が遊行坊として修行、館を遊行寺としたと越知町史。引用の八幡荘伝承記は偽書？	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「越知町史」	平成25年9月2日
223	介石山	かいせきやま	#####	佐川町		貝類や植物の化石を産出する山「貝石山」。佐川は地質の宝庫で、この山頂は白亜紀の地層	「佐川町誌」	平成19年10月9日
146	霧生関	きりゅうぜき	#####	佐川町		土佐州郡志に「切塞坂峠」。中世乱世、木々を切り敵の侵入防御に由来。霧が多いではない	「土佐州郡志」 「温知録」	平成18年4月6日
379	勤王橋	きんのうばし	#####	佐川町		田中光顕の屋敷跡(田中公園)への道筋にある橋。大正4年、田中公園の整備時に架けられた	「佐川町誌」	平成23年1月17日
554	朽木峠	くちきとうげ	#####	佐川町		佐川と津野の境界となる龍馬脱藩の峠道。山深く朽ちた枯木が林立したさまから	「土佐州郡志」	平成27年1月19日
470	黒岩	くろいわ	#####	佐川町		豪族片岡氏により黒岩城が築かれ栄えた。黒紫色に光る神々しい成長伝説の巨岩が由来	「佐川郷史」 「土佐州郡志」	平成25年1月21日
27	佐川	さかわ	#####	佐川町	逆川	川幅が狭い狭川、川が流れ下る坂川、集落の境になる境川、川が普通と逆に流れる逆川。佐川は北に流れる逆川	明神健太郎「佐川郷史」 「佐川町史」	#####
38	猿丸峠	さるまるとうげ	#####	佐川町		古今和歌集に「猿丸太夫」。伝説の歌人と道鏡とする説も。斗賀野へ越える道に猿丸太夫の墓とされる石塔も	「猿丸山考」土佐史談95号	平成16年1月8日
152	斗賀野	とがの	#####	佐川町	トガ	柵の群生する土地や兎・鹿など獲物の狩場などの説。「斗賀野合戦」は自由民権運動の舞台	明神健太郎「佐川郷史」 「佐川子ども風土記」	平成18年5月25日
529	二の部	にのへ	#####	佐川町		城郭は本丸、二ノ丸、一ノ堀、二ノ堀というが、二ノ部となった。中世の斗賀野城跡	「佐川町史 上巻」	平成26年6月9日
447	入寺山	にゅうじやま	#####	佐川町		地検帳にはニウシ山。斗賀野領主の菩提寺の入口？真言宗の僧侶の階級・入寺の住職の寺？	「長宗我部地検帳」 「高知新聞」昭和58年1月26日 「土佐の地名」	平成24年6月25日
219	富士見町	ふじみちょう	#####	佐川町	富士	東方に望む荷稻の「小富士山」が地名の由来。	「富士見町創始記念碑」 「佐川町誌」	平成19年9月11日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
110	文久橋	ぶんきゅうばし	#####	佐川町		JR佐川駅のすぐ西、春日川に架かる橋。幕末文久年間に架した死刑になった一人の罪人を供養する鎮魂の橋	川添亥平「温故録」	平成17年7月14日
270	赤兀橋	あかはげばし	#####	日高村		エンコウにまつわる地名。エンコウが「憂いぞウイゾ」と悲鳴。字が宇井、小字も赤ハゲとなった	「日高・土佐伝説散歩」	#####
461	岩目地	いわめじ	#####	日高村		修験と伝説の大滝山の頂に巨岩、奇岩が幾つもある。大きな岩の見える土地が転じたもの		#####
545	大滝山	おおたきやま	#####	日高村		山頂近くの高い断崖に由来。タキは滝でなく嶽、崖の意味。修験道の山、山姥伝説も	「土佐史蹟巡遊」寺石正路	#####
723	大花	おおはな	#####	日高村	はな	地検帳に高岡郡能津村の枝村大花村とある中世以前の地名。断崖に近い急傾斜地の上、大きな台地の端(はな)	「いの史談」第51号	#####
200	岡端	おかばな	#####	日高村	岡花	地検帳には岡ハナ。土讃線の駅名が岡鼻で芳名「岡花」に改名陳情。端が鼻になり花となる	日高民話の会「日高物語」	平成19年5月1日
356	沖名	おきな	#####	日高村	オキ	中世以前の地名で古くは置奈。「沖」は田畑の開けた遠いところ、「名」は名主のナ	「土佐史談」60号	平成22年7月13日
69	日下	くさか	#####	日高村		かつては「久佐賀」「草香」。日下という皇族の御名代地。日下はくさかの枕詞で、日の昇るところの意味	岡本健一「ものがたり学」 谷川健一「民俗・地名そして日本」	平成16年9月2日
353	筋違橋	すじかいばし	#####	日高村		国道33号線が川をまたぐところに架かる橋。由来は、橋と日下川が斜めに交差することによる		平成22年6月22日
127	砥石谷	といしだに	#####	日高村	トイシ	砥石は農林業の必需品。砥石として使用できる石材のある谷は各地にその地名が残る	坂本正夫「高知県内の河川関連地名」	#####
145	名越屋	なごや	#####	日高村	ナゴヤ	仁淀川の静かな流れに由来。「なごや(和)」は万葉集にも見える古い言葉		平成18年3月30日
611	錦山	にしきやま	#####	日高村		日高の中心地から妹背峠を越えた一帯の紅葉に染まる山を錦に見立てた通称地名	「土佐の史蹟名勝」	平成28年4月11日
285	家俊	いえとし	#####	土佐市		天草を追放されたキリシタン大矢野家俊は、戸波に住み、矢野に変え開墾に務めた	谷川健一「土佐とキリシタン」 松田毅一「キリシタン研究」	平成21年2月10日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
303	井尻	いのしり	#####	土佐市		浦ノ内湾の東端の「入り江の端」がえのしり→いのしり(井尻)に転訛?天然の良港	「角川日本地名大辞典③⑨」	平成21年6月23日
382	宇佐	うさ	#####	土佐市		高岡、吾川、三井と並ぶ高岡郡四郷の一つ海部郷を宇佐八幡宮の勧請を機に宇佐村と改称	「宇佐町誌」	平成23年2月7日
490	萩岬	おぎざき	#####	土佐市		皆山集に「扇か崎といへとか萩か崎也」。岬が扇の形。宝永地震で沈下した萩千軒の伝説	「皆山集」8巻 「宇佐町誌」	平成25年7月1日
209	遅着	おそづき	#####	土佐市		「津野元実すでに戦死せり、援軍おそかりし」と主君の死を嘆いた地「遅着(おそつき)」	「戸波村誌」 「多ノ郷村史と口碑伝説」	平成19年7月3日
154	音丸	おとまる	#####	土佐市		石上乙麻呂の配流地諸説のひとつ、戸波の小さな集落。”おとまる”の読みから音丸説。	榊原忠彦「石上乙麻呂配流地考覚え書き」 岡林清水「土佐風土歷程」	平成18年6月8日
657	甲原	かんばら	#####	土佐市	蒲原	甲原船戸遺跡がある。泥地に生える蒲が多かったことから蒲原、その転訛。遠い昔は低湿地が水田の適地。	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「土佐市史」	平成29年5月1日
721	京間	きょうま	#####	土佐市		河川の間に挟まれた狭い土地「狭間」に当て字をしたもので、地検帳では京満、キヨウマ、ケウマと推測	「探訪」第7号 「京間遺跡」発掘調査報告書	#####
396	地頭名	じとうみょう	#####	土佐市	地頭	地頭が所有した名田。泣く児と地頭には勝たれぬと言われる中世の昔を物語る地名	「長宗我部地検帳」 「土佐の地名」	平成23年5月23日
485	四方寺	しほじ	#####	土佐市		州郡志に高岡郡波介村四方寺。蓮池城を居城とする有力武将大平氏の菩提寺が四方寺	「土佐州郡志」 「波介村四方寺部落誌」	平成25年5月27日
48	高岡	たかおか	#####	土佐市		承和8年(841)吾川郡から分かれた土佐七郡の一つで高岡郷を中心とする郡の意味。丘陵を持つ平地集落が高岡	「土佐市史」 寺石正路「土佐傳説全集」	平成16年3月18日
698	高殿	たかどの	#####	土佐市	井	製鉄用の炉の設備された大きな建物を「たたら」と呼び、「高殿」と書いたもの。	「土佐市史」	平成30年4月9日
603	塚地	つかじ	#####	土佐市		古くは津賀地。集落にある猿喰古墳が由来。蓋石がいまも残り穴神様として祀る。	「武市佐市郎集⑥」	平成28年2月8日
462	時戸	ときど	#####	土佐市		本城防衛のため城外の要所に造られた城が外城、その門が外城門で「トキド」と呼ばれた		平成24年11月5日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
471	中島	なかじま	#####	土佐市		かつては仁淀川の流に浮かぶ中州。野中兼山の治水事業の堤防により用石などと陸続きに	「野中兼山」小関豊吉・辻重忠	平成25年1月28日
400	新居	にい	#####	土佐市	ミイ	高岡郡の高岡、吾川、海部、三井(みい)の四つの郷。ミイは御井で水をくむ場所の尊称	「皆山集」9巻	平成23年6月20日
62	仁淀川	によどがわ	#####	土佐市		「土左国風土記」逸文には「みわがわ=神河」。贄は天皇献上の魚、殿は納舎で贄殿川。淀川に似の似淀川説も	「土左国風土記」逸文	平成16年7月1日
640	波介	はげ	#####	土佐市		地検帳に波介郷。四万十帯の山なみに沿った集落。山が崩れるのを「はける」という語に由来	「長宗我部地検帳」 「探訪」創刊号・仁淀川歴史会 「あらんく話」	平成28年12月5日
352	蓮池	はすいけ	#####	土佐市		中世以前の地名で古くは蓮池庄、蓮池郷。由来は、文字どおり植物のハスらしい	「土佐名家系譜」寺石正路	平成22年6月15日
456	長谷寄	はせより	#####	土佐市		高岡の商店街の東詰。領主の布告を掲示する札場に人が馳せ寄ってきた「走寄」がハセヨリに	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「高知新聞」平成6年9月23日	平成24年9月3日
476	初田	はつだ	#####	土佐市	ハツ	高岡郡用石村の小村初田村。ハツは土地の端又は境を意味する。用石村の西端「果つる田」	「長宗我部地検帳」 「土佐史談」61号 「土佐市史」	平成25年3月11日
56	古市	ふるいち	#####	土佐市		高知県各地の残り中世の面影を伝える。蓮池附近にあったが高岡に新しい市町がつくられた。中世以前が古市	平凡社「高知県の地名」 「土佐州郡志」	平成16年5月20日
410	山ノ神	やまのかみ	#####	土佐市		山を支配する神で、明治以後は大山祇神と書くが、庶民は「山ノ神」と呼ぶ土俗神	「高知県歴史事典」	平成23年9月5日
455	吾井郷	あいのごう	#####	須崎市	アユ	愛知がアユチから転じたように「アユ」は湿地の意。桑田山と多ノ郷のアイ(間)の村説も？	「土佐史談」60号 「土佐の地名」	平成24年8月27日
70	安和	あわ	#####	須崎市		安和は角谷坂と焼坂との間の集落。はかなきのたとえの泡？須崎と久礼の「あわい」(境界)の転訛？	土居正幾「幡多紀行」	平成16年9月9日
149	出見	いずみ	#####	須崎市		花山天皇の都を偲ぶ伝説。ただ土佐下向の史料はないことから、水の湧く泉では(須崎市史)	「皆山集」 「須崎市史」	平成18年4月27日
707	浦ノ内	うらのうち	#####	須崎市		曲折しながら長く延びた大きな浦(入り江)を内側に抱え込んだ地形。浦ノ内の入り江に古社鳴無神社がある	吉田東吾「大日本地名辞書」	平成30年6月25日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
402	大島	おおしま	#####	須崎市	アオ	古代、葬地・葬所を意味する言葉「アオ・アワ」。全国各地の青島、淡島の地名は葬送の島	「日本の地名」筒井功	平成23年7月4日
304	大星	おおぼし	#####	須崎市		地検帳にも大ホシ。製塩の盛んな地で潮の干満の「大千し」に由来。星には関係ない	「長宗我部地検帳」 「土佐の地名」 「須崎市史」	平成21年6月30日
189	遅越	おそごえ	#####	須崎市	遅越	遅い時刻に越えた峠道(桂井)。「オソ」はうと(空)に通じる言葉から切り通しの峠道(松尾)	「桂井和雄土佐民俗選集②」 松尾俊郎「地名の知識100」	平成19年2月15日
22	鳴無	おとなし	#####	須崎市		土佐でも有数の古社「鳴無神社」。土佐神社から神幸の「お船遊び」の神事がある。静かにお参りした説も	「韓川筆話」(皆山集所収)	平成15年9月11日
434	角谷	かどや	#####	須崎市		半山に本拠地を置く津野氏の家臣、門屋隼人佐が田畠を開き集落の名となった。難所カドヤ坂	「おもかげ 須崎市古跡伝説めぐり」須崎市史談会	平成24年3月19日
667	桜川	さくらがわ	#####	須崎市		11世紀ごろまでは『津野川』。川沿いに多くの山桜が咲いていたことから桜川となる。州郡志に「桜ノ瀬川」	高知新聞「ふるさとを流れて⑭」1993年4月13日付	平成29年7月24日
192	新荘川	しんじょうがわ	#####	須崎市	新庄	康和地震で千町の農地が沈海。津野本庄の西に津野新荘を開墾。新しい荘園を流れる川が由来	前田和男「土佐國編年史料控」	平成19年3月8日
547	須崎	すさき	#####	須崎市		新荘川の流砂が堆積し沿岸洲が発達。砂州状の土地がスサキ。池ノ内湾は潟湖で残る	「須崎市史」	#####
302	糺町	ただすまち	#####	須崎市		京都下鴨神社の社の別名は糺の森。古城山に鎮座する糺鴨神社に由来。地検帳にも糺宮とある	「須崎市史」 「長宗我部地検帳」	平成21年6月16日
519	西生	にしう	#####	須崎市		桑田山の集落。西宇次郎兵衛、半兵衛の兄弟が山あいの地を開拓。その名字から	「長宗我部地検帳」 「おもかげ 須崎市古跡伝説めぐり」	平成26年3月24日
114	野見	のみ	#####	須崎市		「野見千軒」白鳳地震に沈んだ黒田郡を一見する集落。野が見える意で歴史的にみて海辺でなく山の上の遠望	「皆山集」 「土佐の地名」	平成17年8月11日
342	灰方	はいがた	#####	須崎市		土佐市宇佐との境。灰方古墳群があり海部郷(あまべごう)の豪族埋葬地?ハエと潟の地形地名	「和名類聚抄」 「土佐の地名」	平成22年4月6日
585	法院坂	ほういんざか	#####	須崎市		盗賊に襲われた大善寺の高僧道貞、非業の死を悲しみ法院坂と呼びはじめた。旧正月15日縁日	「須崎史談」34号	平成27年9月7日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
248	仏坂	ほとけざか	#####	須崎市		弘法大師が彫ったと云われる仏石があり、それに由来する地名。今は光明峯寺の境内に鎮座	「土佐州郡志」	平成20年4月8日
206	御手洗川	みたらいがわ	#####	須崎市	御手洗	御手洗(みたらい)は神仏を拝むとき参拝者が手を清め口をすすぐ場所のこと。		平成19年6月12日
41	焼坂	やきざか	#####	須崎市		須崎から久礼へ越える急坂は中村街道の指折りの難所「土佐無双ノ大阪」。「土佐州郡志」に二つの伝承	近藤喜博「四国遍路研究」 「土佐州郡志」	平成16年1月29日
427	依包	よりかね	#####	須崎市		須崎市上分の集落で、地検帳に依包名とある。地区民は勤勉で金が寄り集まる？	「長宗我部地検帳」 「かわうその里」上分小学校 記念誌	平成24年1月30日
512	北川	きたがわ	#####	津野町		津野町の山深い集落。安芸から来住し新しい領主となった北川源兵衛を地域の祖とし地名に	「我等の郷土」	平成26年2月3日
552	桑ヶ市	くわがいち	#####	津野町		開拓に際して、農具の鋤を桑の木に掛けた「桑掛けの地」。開拓地や集落を垣内(かいち)？	「土佐州郡志」	#####
675	新田	しんでん	#####	津野町		地検帳に記された田地を本田、その後の開発地を新田。旧東津野村の中心地とした立役者は山中喜馬太さん	「東津野村史」	平成29年9月25日
266	力石	ちからいし	#####	津野町		石を神の依代とする信仰に始まったのが力石。その後、若者たちが力比べをする石となった。	「土佐州郡志」 「東津野村史」	平成20年9月9日
486	津野	つのさき	#####	津野町		津野庄、津野山郷、津野町など村名を受け継ぐ。来国した津野氏が讃岐津野郷に因む	「津野中平氏由来」中平秀則 「大日本地名辞書」吉田東伍	平成25年6月3日
593	津野山開拓	つのやまかい たく	#####	津野町		昭和26年、食糧難を打開するため国有林47町歩の地に6家族30人が入植。開墾地も今では植林に	「開拓記念碑」(石碑)	#####
98	葉山	はやま	#####	津野町		津野山須崎間の「半山」。平地から遠くにある奥山・深山にたいして近いところの山が端山(麓山)か	徳弘勝「土佐の地名」	平成17年4月14日
531	番城	ばんじょう	#####	津野町		津野北川地区の集落。山王山に北川城の出城(番城)があったことに由来。領国境目の防備用	「長宗我部地検帳」 「東津野村史 下巻」 「国史大辞典」11巻	平成26年6月23日
460	姫野々	ひめのの	#####	津野町		土佐州郡志に荒れ野に姫の化け物が出没という怪奇伝承？。津野氏の姫君の出家ゆかり地名？	「土佐州郡志」 「葉山村史」	#####



土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
99	布施ヶ坂	ふせがざか	#####	津野町		峠は道祖神(塞神)を祭り災厄をもたらす悪霊を防ぐ境でもある。この「防ぎ坂」の意図か。	「東津野村史」 中越穂太郎「津野山異談続編」	平成17年4月21日
5	船戸	ふなと	#####	津野町	フナト	舟戸神(岐神)は村の外から災厄が入るのを防ぎ、村を出る人の安全を守る神。道祖神も同じ	「桂井和雄土佐民俗選集②」 「古事記伝②」岩波文庫	平成15年5月1日
504	保井川	ほいがわ	#####	津野町		この地の開拓者、越知面から来た万法五郎の法号「保井宗川居士」から保井川の地名	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」	#####
442	羊腸トンネル	ようちょう	#####	津野町		布施ヶ坂は左右にくねった急坂。その陰しさを形容したのが「羊腸の道」で1845年の紀行文	「東津野村史」上巻	平成24年5月21日
267	飯母	いいぼ	#####	梶原町		古くは飯穂、イ井ホなどとも。種籾にまつわる伝承色々あるが稲もよく育つ豊かな土地柄	「広報ゆすはら」s42.7月号 中越穂太郎「津野山異談続々編」	平成20年9月16日
520	大越	おおごえ	#####	梶原町		梶原街道筋。北川領主の家来、富岡氏が離縁され伊予に帰る姫を大声で呼び返した処	「長宗我部地検帳」 「東津野村史 下巻」	平成26年3月31日
432	大野ヶ原	おおのがはら	#####	梶原町		久万の豪族大野氏と長宗我部の激戦地。氏の戦勝を記念して命名?大きな野原?	「愛媛県百科事典」 「愛媛県史」古代Ⅱ・中世編	平成24年3月5日
265	越知面	おちめん	#####	梶原町		中世にこの地を領した越智氏にちなんだ地名。遠い世、梶原を開いたのは伊予人(司馬遼太郎)	「梶原町史」 司馬遼太郎「街道をゆく」⑲ 梶原街道	平成20年9月2日
273	親ヶ淵	おやがぶち	#####	梶原町		梶原川のこの流域で一番の淵という意味。奇岩や巨岩が並ぶ神秘的とも言える深い淵	「津野山異談 続々編」	平成20年11月4日
680	川西路	かわにしじ	#####	梶原町		梶原川の大洪水で町組を分断、川の西から「川西路」。その通称地名も1984年嶋之宮等13の小字を統合し川西路	梶原町史2 梶原町教委「ふるさとの素顔」	平成29年11月6日
269	四万川	しまがわ	#####	梶原町		州郡志には「川流四万許 湊合之処 故為村名」と由来。シマガヤの自生地説や嶋がうね説も	「土佐州郡志」 「津野山異談 続々編」	平成20年10月7日
683	茶や谷	ちややたに	#####	梶原町	茶屋	地検帳にもチャヤノ前、茶屋ノ上など中世以前の地名。茶堂・辻堂は旅人の接待所であり、伊予への要路の拠点	梶原町広報誌「ゆすはら」 1966年10月号	#####
690	中平	なかひら	#####	梶原町		土佐州郡志に「以山中地平処故名」と山の中にある平らな土地が中平。夢窓疎石の伝承の地でもある	「土佐州郡志」	平成30年1月29日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
438	名元屋敷橋	なもとやしきばし	#####	梶原町		村々の役人「名本」屋敷。中世名主から近世村役人への過渡期の姿。山方を主に小集落に設置	「梶原町史」旧小字図 「高知県歴史事典」	平成24年4月16日
677	山城	やんじょー	#####	梶原町		地検帳には「ヤンセウ」。中世の頃城ヶ峯の山上に設えた山城説や災難に遭った大蛇「焼蛇の駄場」の転訛説も	「梶原町史」	#####
430	梶原	ゆすはら	#####	梶原町		伊予からきた津野経高の手でひらかれた梶原。ユスノキ(マンサク科常緑高木)が多く自生	「土佐物語」吉田考世 「土佐州郡志」	平成24年2月20日
560	六丁	ろくちょう	#####	梶原町		四万川地区の玄関口。丁は昔の距離の単位(1丁は109m)で両隣の集落までの距離がともに6丁	「土佐州郡志」 「ふるさとの素顔」梶原町教委	平成27年3月2日
212	大野見	おおのみ	#####	中土佐町	大野	大野は古事記にもみえる古い言葉で広大な平原の意。「大野が見えた」と開拓にまつわる伝承	「おらが村だよ」	平成19年7月24日
595	大股	おおまた	#####	中土佐町		川や道が分岐している場所を「・・又」。氏神様の神木が又状に分かれたところに由来「大股」	「大野見村史」	平成27年12月7日
601	乙女橋	おとめばし	#####	中土佐町		県立須崎高校中土佐分校・被服科の女子ばかりの通学路が由来。2008年に閉校		平成28年1月25日
656	上ノ加江	かみのかえ	#####	中土佐町	加江	戦国乱世、平田氏の「真江」、佐竹氏の「上真江」。佐竹氏が併合した結果。賀江は5世紀、志和氏が土佐に来往し、その所領「加賀国江沼郡」に由来	「上ノ加江町史」	平成29年4月24日
606	喜田	きだ	#####	中土佐町		奈路地区の一角。昭和6年、喜田洋樽製材工場が進出し一気に集落形成。一企業名が地名に	「大野見村史」	平成28年2月29日
7	久万秋	くまあき	#####	中土佐町		仁井田郷の長左衛門が入植。開拓の時代を伝える熊の垣が転じたもの。熊秋から久万秋と	「大野見村史」昭和31年・56年	平成15年5月15日
101	久礼	くれ	#####	中土佐町	クレ	初出は建長2年(1250)。日の暮れやすい土地? 建築用材の樽の由来か? 樽は古くからの献納品で林産物の集積地	「中土佐町史」 徳弘勝「ふたつの浮津から」 木村茂光「ハタケと日本人」	平成17年5月12日
641	笹場	ささば	#####	中土佐町		中世以前の地名、篠葉村。久礼を本拠地とする佐竹氏の家臣、篠葉十兵衛の給地でその後笹場に転訛	「長宗我部地検帳」 「土佐州郡志」 「中土佐町誌」新版	#####
301	添蚯蚓坂	そえみみずざか	#####	中土佐町		幡多への主要な往還道の一つ。ミミズが這うつづら折りの急坂を由来(州郡志)	「土佐州郡志」	平成21年6月9日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
598	萩原	はぎはら	#####	中土佐町		室町末期の五輪塔群は領主佐竹氏の墓所。藩政期「灰原」の呼称を萩原に地区総会で復古	「長宗我部地検帳」 「広報なかとさ」2008年3月号	#####
720	日野地	ひのじ	#####	四万十町	日ノ地	大野見郷三股村の小村日野地村と土佐州郡志に記録。日光がよく差し込む土地柄・日浦の別名が日野地・日ノ地	「四万十町通信」26号	平成30年11月5日
211	市野瀬	いちのせ	#####	黒潮町	市野瀬	中世以前からの地名で一ノ瀬・一野瀬・市ノ瀬。川の上流の坂を下ったところ。市は一番目の瀬(桂井)	「おらんく話」	平成19年7月17日
501	飯積山	いづみやま	#####	黒潮町		806年、弘法大師が開創の古寺飯積寺。飯を盛ったような形の山容。白虎隊の飯盛山など全国に		#####
260	王迎橋	おうむかえばし	#####	黒潮町		中世の尊良親王の伝承にちなんだ地名。海の王迎駅、待王坂、王無浜などゆかりの地名多数		平成20年7月15日
60	大方	おおがた	#####	黒潮町		幡多郡の五郷の一つが「大方郷」で千年の歴史。白鳳大津波が作った入野の大潟に由来か。流し越エの字名も	「和名類聚抄」 浜田数義「田野浦集落誌」	平成16年6月17日
662	御坊畑	おんぼうばた	#####	黒潮町		入道(大坊主)の開拓地に由来。当人の墓か、集落に歳月を経た卵塔がある。大坊主ノ畑が転じて大坊畑	「長宗我部地検帳」 「高知県史 古代中世史料編」所収・下民むかし咄	平成29年6月5日
249	会所	かいしょ	#####	黒潮町		会所は一般に藩の政庁のこと。佐賀では役人の官舎なども会所と呼んだのだろう「会所畠」	「佐賀町郷土史」 谷真潮「西浦廻見日記」	平成20年4月15日
174	荷稻	かいな	#####	黒潮町	カイ	カイ(峡)は山と山の間、両方から山が迫ってくる地形。荷稻は峡野の転訛では(桂井氏)	「おらんく話」	#####
670	上川口	かみかわぐち	#####	黒潮町		川が海などに注ぐところが「川口」。幡多に二つの川口、湊川河口の上川口と宗呂川河口の下川口	沖本樵児「渭南史跡たつくし」	平成29年8月14日
654	加持	かもち	#####	黒潮町	賀茂	黒潮町大方の加持川沿いの集落。高賀茂の神の配流地「賀茂之地」。和銅6年(713)の地名は二字の嘉字通達により鹿持。鹿持雅澄祖先の地	「長宗我部地検帳」 「土佐史談」192号 「幡多日記」鹿持雅澄	平成29年4月10日
288	熊井	くまい	#####	黒潮町		紀州熊野から海を越えて運ばれてきた熊野信仰が、熊居(熊野の神の居ますところ)と	「南路志」	平成21年3月3日
331	塩屋	しおや	#####	黒潮町	塩	塩炊小屋の所在に由来。明治以前は佐賀でただ一つの製塩場。高知市の塩屋崎町も同じ	「続さが谷昔ばなし」佐賀町老人クラブ連合会・製塩風景	平成22年1月19日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
538	田野浦	たのうら	#####	黒潮町		白鳳地震の前は田地の広がる海辺の集落だったのだろう。大方の地名も海に没した大渦	「田野浦集落誌」	平成26年8月18日
659	野田の坂	のたのさか	#####	黒潮町	ノタ	昔々津波が押し寄せ、野田不動尊の前でピタッと止まった。地元ではノータ。大波をノタという地方がある。	「さが谷昔ばなし」佐賀町老人クラブ連合会	平成29年5月15日
717	網代	あじろ	#####	四万十市	網代	「網代 漁鮎魚処故為名」と土佐州郡志。鮎をとる所の意味。万葉集にもある来歴の古い言葉。漁の最適地の意	「土佐州郡志」 「高知県方言辞典」	#####
666	後川	うしろがわ	#####	四万十市		四万十川の背後に流れる意味から”ウシロの川”＝後川。アイヌ語の”湾内の土地”＝オシヨロの転訛説も	土佐州郡志 後川村史前篇1954年	平成29年7月10日
337	鵜ノ江	うのえ	#####	四万十市		地検帳には鵜江村。鵜の棲息する入り江と思われるが、「え」は礁(ハエ)。鵜飼の仕事場	「長宗我部地検帳」 「高知県内の河川関連地名」 「土佐の地名」	平成22年3月2日
242	川登	かわのぼり	#####	四万十市		中世以前からの地名で古くは河登とも。この辺で四万十川は大きくS字に蛇行し逆流する様相	「中村市史」	平成20年2月26日
672	京町	きょうまち	#####	四万十市		一条氏が中村に下向して100年にわたった町づくり。京都風の町をあらわす通称地名。一条通、東山、鴨川も	中村町誌1950年	平成29年8月28日
357	串江	くしえ	#####	四万十市		四万十川河口左岸、半島のように突き出た下田の旧名「櫛江」。何かを串刺しにした地形から	「下田郷土史料」宇賀嘉弥太 「幡多郡紀行」防意軒半開	平成22年7月20日
175	具同	ぐどう	#####	四万十市		郡家(ぐうけ・幡多の郡役所)の稲倉のことを「郡稲(ぐどう)」という。野草グドウジ説も	岡村憲治「大川の流域」 前田和男「土佐古代史の研究」	平成18年11月2日
172	古津賀	こつか	#####	四万十市		塚は動詞『筑く』の名詞形。死者を葬るところ。かつては小塚、古塚、小津賀で土地の目印		#####
264	四万十川	しまんとがわ	#####	四万十市		古来より謎につつまれた地名。橋田庫欣氏の考証が詳しい。近年は木材石数説(野本氏)も	「土佐史談」所収・橋田庫欣 「四万十川民俗誌」	平成20年8月26日
496	下田	しもだ	#####	四万十市		甲浦、浦戸などと並ぶ重要港湾。四万十川の川下の渡しという意味で「下渡・しもど」	「下田郷史史料」宇賀弥太	平成25年8月19日
573	常六	じょうろく	#####	四万十市		村内の寺社に瑞雲寺があった。常陸の国から来た高名な僧が開山しその山号が常陸山	「長宗我部地検帳」 「南路志」	平成27年6月8日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
722	女郎口	じょろうぐち	#####	四万十市		土佐の隠密と宇和島女の悲哀。捨てられた女は山犬に襲われ、以来その山を女郎山。上臈は貴人に仕えた女性	「西土佐村史」	#####
578	為松公園	ためまつこうえん	#####	四万十市		400年余り昔に中村の有力な豪族、為松氏が築城。古城山とも呼ばれる。タンマツとも	「土佐物語」 「中村城跡」	平成27年7月13日
282	角崎	つのさき	#####	四万十市		中世以前の地名で、古くは津崎、津野崎とも書いた。船着場のある、川に突き出した土地	「高知県内の河川関連地名」 岡村憲治「西南の地名」	平成21年1月20日
679	鶴屋敷	つるやしき	#####	四万十市		土御門上皇が配流となり妃、千代鶴姫と生まれた皇子の住まいの地に由来？地検帳にはツルイヤシキ(釣井)		#####
51	百笑	どうめき	#####	四万十市		四万十川の赤鉄橋の左岸。同じような地名は全国に多数あり、波の音「どめく」による。どどは、10×10=百	「高知県方言辞典」 民俗地名語彙辞典・下	平成16年4月8日
284	中村	なかむら	#####	四万十市		中村の初出は弘安4(1281)年、京都一条家の幡多庄の中心という意味で生まれた地名	「日本の苗字読み解き事典」 「中村市史」	平成21年2月3日
532	鍋島	なべしま	#####	四万十市		遠い昔、四万十川左岸河口の入江の島であった鍋島は、竹島の南に「並んだ島」から転訛	「下田郷土史料」	平成26年6月30日
322	半家	はげ	#####	四万十市		平家であることを隠すため平を半？。崖や傾斜の急な土地を言う地形語のハゲ(谷川彰英)	「高知県の地名」 「高知県幡多郡誌」 谷川彰英「『地名』は語る」	#####
287	初崎	はつざき	#####	四万十市		中世にさかのぼる地名で、古くは福崎村。いわば「地域の果てとなるところの崎」河口の岬	「ふたつの浮津から」	平成21年2月24日
321	双海	ふたみ	#####	四万十市		もともとは伊屋。昭和32年中村市に編入の際の公募新地名。飛び出た段丘の両側に海「双海」	「土佐の地名」	#####
55	不破	ふば	#####	四万十市		幡多郡の五郷の一つが「宇和郷」。それが転じて不破？教房は京都の石清水八幡宮から勧請した不破八幡宮	安養寺禾麻「土佐幽玄考」 「高知県史 考古編」	平成16年5月13日
514	間崎	まさき	#####	四万十市		四万十川の下流右岸。南の初崎と北の実崎との間が間崎。ここ見善寺が大文字の送り火を	「長宗我部地検帳」 「土佐名家系譜」 「皆山集」10巻・西郊余翰	平成26年2月17日
236	渡川	わたりがわ	#####	四万十市		土佐州郡志にも「渡川 是四万十川之下流」とある。語源は渡し説と渡り説(野本氏)	「土佐州郡志」 「中村市史」 野本寛一「四万十川民俗誌」	平成20年1月15日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キ一用語	説明	参考書籍	掲載日
587	出井	いでい	#####	宿毛市	井	篠山からにじみ出る冷泉・水の湧き出でる井(水くみ場)ことから。出井の甌穴群は独特の景観	「宿毛市 集落の歴史と文化財」	平成27年9月28日
700	宇須々木	うすすき	#####	宿毛市		九州の臼杵からご神体が流れ着いたことから、臼杵にちなんで宇須々木の地名が。地検帳にも臼杵分が散見	門谷久治「宿毛西部を中心とした郷土誌」1951年	平成30年4月23日
724	大島	おおしま	#####	宿毛市		周辺の片島・池島・一島なども大島村の中に入っている群島の中で一番大きな島。片島は大島の片割れの島の意	橋田庫欣「宿毛市 集落の歴史と文化財」	平成30年12月3日
238	小筑紫	こづくし	#####	宿毛市		この地に流れ着いた道真が「ここが筑紫か」と問うたことに由来?周辺には天満宮が多い	「宿毛市史」 広江清「長宗我部地検帳の神々」、「土佐の地名」	平成20年1月29日
286	真丁	しんちょう	#####	宿毛市		大地震で宿毛の町は壊滅。新しい商家の町を、すでに新町があったため「新丁」。後に転訛	「宿毛市 集落の歴史と文化財」	平成21年2月17日
281	宿毛	すくも	#####	宿毛市		松田川の砂洲一面に葦の生い茂る湿原が形成。その葦などの枯れたものを古語で「すくも」	「宿毛市史」 「後撰和歌集」紀内親王	平成21年1月13日
562	高砂	たかさご	#####	宿毛市		市街化が進み21世帯で高砂(たかさな)区が誕生。中州の小高い砂原でタカスナを縁起でタカサゴ	「宿毛市 集落の歴史と文化財」	平成27年3月16日
579	錦	にしき	#####	宿毛市		武将立田九郎右衛門の錦城。法花津弥四郎の妻は都人で機織りをしたゆえ「錦」	「土佐州郡志」	平成27年7月27日
692	二ノ宮	にのみや	#####	宿毛市	二ノ宮	一の宮、二の宮は、昔、国ごとに神社の社格・序列を定めたもの。波多国の二ノ宮と呼ばれたのが正八幡宮	橋田庫欣「宿毛市 集落と文化財」	平成30年2月26日
574	平田	ひらた	#####	宿毛市		幡多郡五郷の一つが平田郷。中筋川が流れ田地広がった平野が平田。遠く古代からの営み	「和名類聚抄」 「高知県幡多郡誌」	平成27年6月15日
584	福良	ふくら	#####	宿毛市	フクラ	海岸山中で水流の屈曲が造ったやや広い平地。福良も蛇行する川べりにふっくらと田畠が形成	「定本柳田国男集」20巻 「おらんく話」	平成27年8月31日
50	与市明	よいちみょう	#####	宿毛市		野中兼山の遺児が宿毛へ流されたとき長男・清七一明に与えられた土地は俗説。地検帳に「与一名」与一の名田	橋田庫欣「宿毛市の歴史と文化財」	平成16年4月1日
243	呼崎	よびさき	#####	宿毛市		入り江に面して向かいあった二つの集落。互いに大きな声で呼び交わす土地柄から「呼崎」	「宿毛市 集落の歴史と文化財」	平成20年3月4日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
240	頭集	かしらつどい	#####	大月町		石切職人の頭の集合地?この地に古満目、柏島、安満地、弘見からの往還が通じる中心地	谷口研語「地名の博物誌」 「大内町史」	平成20年2月12日
556	柏島	かしわじま	#####	大月町		島の形が柏の葉っぱに似ていることから。他方、カシワは「堅い磐」のつまったもの説も	「長宗我部地検帳」 「大内町史」 「日本の地名」松尾俊郎	平成27年2月2日
697	姫ノ井	ひめのい	#####	大月町		姫ノ井城がある中世以前の地名。姫君がよく汲みにきた井戸が地名由来。もとは井ノ川の井戸	大月史談会「大月の昔ばなし」第1集	平成30年4月2日
571	弘見	ひろみ	#####	大月町	広見	弘見は山あいを開けた盆地状の広い土地。平野の真っ只中や海岸にはない。野見、大野見	「長宗我部地検帳」 「大内町史」	平成27年5月25日
558	三原	みはら	#####	三原村		三原の元は、皆尾地区の沖の原、亀ノ川地区の桑原、宮ノ川地区の水原の三つで三原	「三原村史」	平成27年2月16日
568	芳井	よしい	#####	三原村		中村支藩の小八木氏の開拓地。構築した井堰水路を水量の多いことを願う好字の芳井	「角川日本地名大辞典 <sup>39</sup> 」	平成27年4月27日
247	伊豆田峠	いずたとうげ	#####	土佐清水市		市野瀬の伊豆田神社は式内社で千年の歴史。イデユタ：出湯田が語源で水の湧きだすところ?	橋本登「下茅の歴史」 志賀剛「式内社の研究」	平成20年4月1日
336	渭南	いなん	#####	土佐清水市		伊豆田峠の南部を以南と称いた。明治30年頃土陽新聞が四万十川を中国の渭水に見たて渭南	「土佐清水市史」 「武市佐市郎集 <sup>①</sup> 」	平成22年2月23日
333	臼箸	うすばえ	#####	土佐清水市	ハエ	黒潮砕ける岩礁。白く渦巻くさまを挽き臼のように見たのだろう。州郡志に臼岩	「土佐州郡志」	平成22年2月2日
566	小方	おがた	#####	土佐清水市		下ノ加江川の河口左岸、昔は小さな入り干潟。やがて土地となり集落となる小潟が小方	「下茅の歴史」橋本登	平成27年4月13日
334	音無川	おとなしがわ	#####	土佐清水市		万次郎の生まれた故郷に流れる小谷。音無神社のそば、文字どおり水音の静かな川	「土佐清水市史」下巻	平成22年2月9日
173	鍵掛	かいがけ	#####	土佐清水市	カケ	中世以前の地名で古くはかぎかけ、かぎがけ。カケは崩壊地名。カイは欠きから転じたもの	市原麟一郎「土佐のお地蔵さん」 松尾俊郎「日本の地名」	#####
169	叶崎	かなえざき	#####	土佐清水市		叶崎の初出は土佐州郡志。観音を祭った岬が転じて叶崎(かなえざき)に転訛	沖本樵児「土佐サボテン仙人 炉辺歓話」 「土佐州郡志」	平成18年9月21日
705	越	こえ	#####	土佐清水市	コエ	越と小江の二つの表記。南路志に「越村 いまは小江」とある。昔、清水を大江と呼んだ。小さな入り江の意か	亀井釣月「補註幡南探古録」	平成30年6月4日
295	下ノ加江	しものかえ	#####	土佐清水市		植物の茅に由来。燃えやすい茅の字を嫌い霜栢に変わり、明治には下ノ加江村	亀井釣月「補註幡南探古録」	平成21年4月21日

土佐地名往来(高知新聞夕刊連載記事)

掲載順	地名	よみ	コード	所在市町村	キー用語	説明	参考書籍	掲載日
246	爪白	つまじろ	#####	土佐清水市		カラスの白い爪か鹿の白い蹄か。違う伝承が二つある地検帳にある古い地名「爪白ノ村」	谷真潮「西浦廻見日記」 亀井釣月「補注幡南探古録」	平成20年3月25日
291	唐人駄場	とうじんだば	#####	土佐清水市		駄場は山やなどにある平らな場所の意。狼煙を上げる人(燈人)、異国船の見張(唐人)の居住地	「土佐清水市史」	平成21年3月24日
289	土佐清水	とさしみず	#####	土佐清水市		南路志に「清水 渡場ニ有 名水也 此清水によりて当村の名とせる物ならん」とある古来の名水	「南路志」	平成21年3月10日
684	中浜	なかのはま	#####	土佐清水市		東に大浜、西に小浜があり、その中間から「中浜」。小浜は潮津波で消滅した。太平洋に面した万次郎の誕生地	亀井釣月「補註幡南探古録」	平成29年12月4日
235	猫神橋	ねこがみばし	#####	土佐清水市		西光寺住職の愛猫の死により祠を建て供養した「猫神さん」に由来する	「土佐清水市史」下巻 八岩まどか「猫神様の散歩道」	平成20年1月8日
694	払川	はらいがわ	#####	土佐清水市	祓川	四国霊場38番札所金剛福寺の奥の院である白皇神社に参拝する際、清めの水を使った川、ゆえに払川。	「土佐清水市史」下巻	平成30年3月12日
176	益野	ましの	#####	土佐清水市	マシ	猿は古名を「まし」「ましら」といった。疫病の退散を願って縁起名「益野」に改名	「土佐州郡志」 「土陽隠見紀談」 亀井釣月「幡多探古録」	平成18年11月9日
330	松尾	まつお	#####	土佐清水市	マツオ	松の植生に由来。生は所を示す語で松生でマツオと読む。地名の○尾は全部「生」	「地名風土記」 「写真集 土佐清水」	平成22年1月12日
239	養老	ようろう	#####	土佐清水市		加久見村の老人たちの隠居先となる移住の地。養老浦として成立したのは元禄年間のこと	「土佐清水市史」 亀井釣月「補注幡南探古録」	平成20年2月5日